

未来への提案

水口学区の持続可能な発展に向けて



2023年12月

水口学区地域別ランドデザイン検討委員会

目次

(ページ)

はじめに	1
I 地域別グランドデザインの位置づけ	2
I-1 グランドデザインとは	
I-2 計画の区域	3
II 水口学区の現状と特徴（地域カルテ等から抜粋）	5
II-1 人口統計、推計・人口分布等からの考察	5
II-2 都市計画・国土利用計画・道路計画等による位置づけ	6
II-3 歴史、文化からみる水口の沿革	7
III 検討経過	7
III-1 区長会と自治振興会、しろやま宣言との関係	7
III-2 ワークショップの振り返り	9
III-3 若者会議	12
IV 取り組むべき喫緊の課題と解（方法）	13
IV-1 4つの地域課題とその解決策	13
IV-1-1 地域ソサエティ・コミュニティ	13
IV-1-2 空家・空地	16
IV-1-3 移動・移送、公共交通	19
IV-1-4 子ども・若者	23
IV-2 地域コミュニティ拠点の今後の在り方	27
IV-2-1 東部、北部コミュニティセンターの今後	29
IV-2-2 新しいコミュニティ施設の必要性	34
V 未来に向けた活動目標	36
VI 付録	37
VI-1 水口学区 地域別グランドデザイン検討委員会委員名簿	
VI-2 活動の経過	
VI-3 会議の記録	

はじめに

人口減少や少子高齢化が進み、住民主体による地域活動への負担が高まり、住民自治（区・自治会、自治振興会、市民活動団体等）としての課題が顕在化しつつあります。また一方では、公共施設の老朽化や社会保障費の急増など、団体自治（市行政）としての公共的な課題も避けては通れない状況を迎えています。

これらの課題を解決するために、「地域でなければ解決できないこと」「行政だからこそすべきこと」「地域と行政がともに解決すべきこと」をそれぞれの地域ごとに考え、最適解を導き出す取り組みとして、令和3年度に甲賀市が地域別グランドデザインの策定を提唱しました。

地域別グランドデザインは、市民、地域コミュニティ、市民活動団体、民間事業者、議会および行政等が、対等な立場で対話による合意形成（納得感）を図るとともに、地域の将来展望を構築するプロセス（過程）を重視した取り組みとされています。

水口学区においても各区・自治会、町内会や自治振興会が行政と協働して、持続可能なまちづくりに大きく舵を切る必要性を認識するとともに、多様化する住民ニーズへの対応や複雑化する地域課題の解決に向け、令和4年11月に地域別グランドデザイン検討委員会を設置して対話を重ねてきました。

検討委員会は地域区長会とみなくち自治振興会から選出した委員と公募による委員、市職員のグランドデザイン推進班員の17人で構成され、この報告書は、水口学区約7,000住民の代表として活動結果とその経緯をまとめたものです。具体の論点が示されていないので、市が求める所期の目的と乖離する内容かもしれませんが、検討委員の真摯な議論と情熱の結晶と受け止めていただき、今後、区・自治会や自治振興会活動の一助となることを期待しています。

また、今後もこのような取り組みの継続により、地域住民と行政職員の信頼関係が深まり、まちづくりへの関心が拡大していくことを願っています。

委員長 久保田 佳史

I 地域別グランドデザインの位置づけ

1 グランドデザインとは

甲賀市が提唱している地域別グランドデザインとは、地域住民の思いをまとめ、おおよそ20年先を展望したまちの姿、行動指針を意味しています。理想とする姿に向かって、地域は、また行政は何をしていけばよいのか、来るべき未来に向けて、現在抱えている課題、そしてこれから起こる変化や課題を見据えた中で、住み慣れた地域で「いつもの暮らし」を守り続けるために、「地域でなければならないこと」「行政だからこそすべきこと」「地域と行政がともに解決すべきこと」を、それぞれの地域ごとに考え、最適な解を導き出す作業が、地域別グランドデザインづくりです。

地域別グランドデザインづくりの**基本的な考え方**は市が示すマニュアルに沿って以下のとおりとします。

- ・地域別グランドデザインとは、未来を展望した中で、想定される地域課題と行政課題を明らかにし、その解決に向けた方向性や具体的な行動について示すものです。
- ・既存の「地域づくり計画（しろやま宣言）」をベースとし、そのバージョンアップを図ります。
- ・地域の単位は、みなくち自治振興会の範囲（岩上地域を除く概ね水口小学校区。本編では以下、「水口学区」という。）とします。
- ・展望する未来は、議論の主体である現役世代が責任を持てる未来であり、高齢化のピークである2040年とします。
- ・対話による合意形成を図りながらまとめていきます。
- ・地域別グランドデザインづくりは、地域での課題解決（地域内分権）を推進する取り組みであり、主役は地域（自治振興会）ですが、市職員もメンバーとして検討の場に参画し、デザインづくり及びデザインの実現をサポートします。
- ・デザインの検討プロセスを通じて、地域住民と行政職員が信頼関係を構築し、策定後も随時デザインを更新しながら、関係性を継続させていくことを目指します。

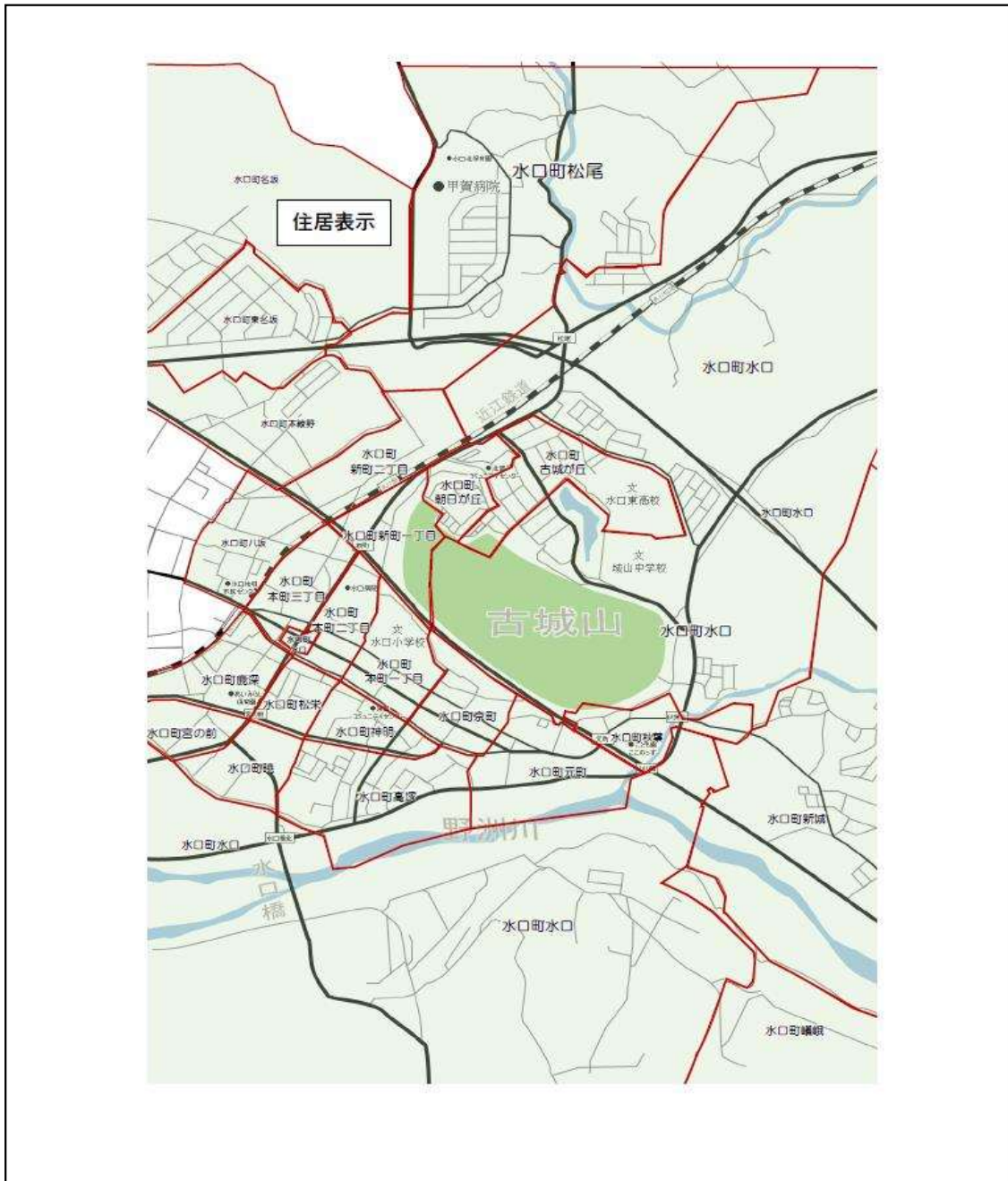
2 計画の区域

市の方針に沿って、計画の区域は水口学区を対象に検討しました。地図及び地名を以下に示します。なお、同一地名の中で綾野小学校区と区分されていたり、住居表示されなかった「水口町水口」（綾野学区にもある）が点在しているため、厳密な境界は不明です。区域の線引きが必要ない取り組みは、今後、近隣の綾野自治振興会や岩上自治振興会と協力しながら進めます。

なお、水口学区の旧市街地（旧東海道の宿場エリア）には古くから地域コミュニテ

ィの基礎といえる町と、市の行政区等設置規則に定める区とが重なって存在しています。一方、古城山を挟んで北西部には昭和40年代から平成中頃にかけて開発された住宅団地が広がっていて、区域内における歴史や文化が異なることから、共有することが困難な課題も見受けられます。そのことから、**区・自治会や町会の問題・課題、あるいは東部・中部地域や北部地域だけに限定される課題についてはそれぞれのエリアごとに検討を継続していくこととします。**

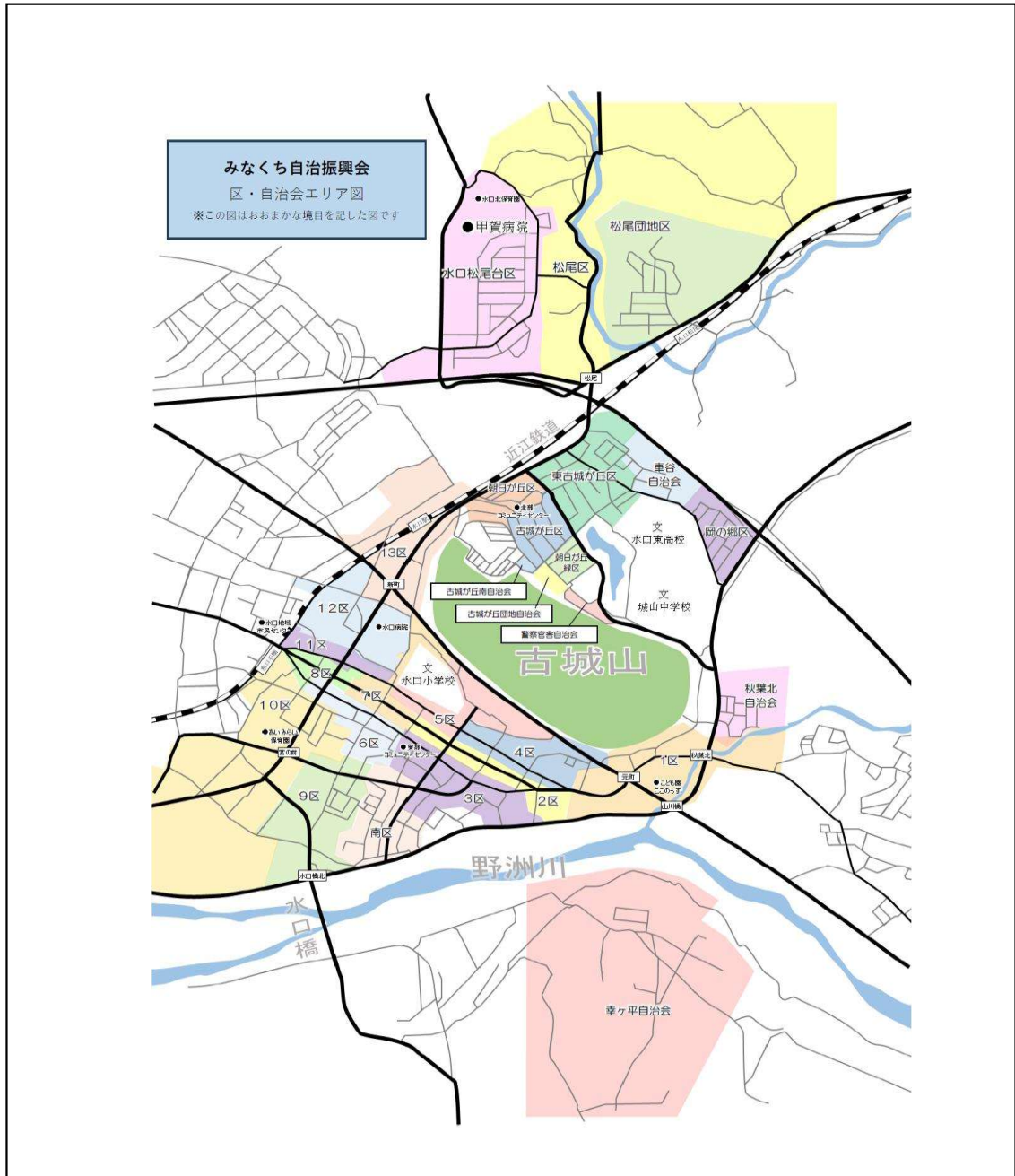
【区域図…地名】



地名(50音順)

暁、秋葉、朝日が丘、京町、古城が丘、松栄、新町一丁目、新町二丁目、神明、高塚、本町一丁目、本町二丁目、本町三丁目、松尾、水口(点在している。綾野にもある)、宮の前(綾野学区と別れている)、元町、八坂(綾野学区と別れている)、鹿深(綾野学区と別れている)

【区域内区割図】



区・自治会と構成する町等

- 1区 (月ヶ上・田・片・松原・作坂)
- 2区 (旅籠・葛籠・大池・柳)
- 3区 (東)
- 4区 (湯屋・池田・滝・速玉)
- 5区 (大岡寺・大原・呉服)
- 6区 (永原・鍵中・中島・西)
- 7区 (魚屋・夷・伴)
- 8区 (平・米屋)
- 9区 (大正・御所後・石倉・大川)
- 南区
- 10区 (市場・町邸・街森・勝栄・蓮花寺・地方森・南本)
- 11区 (塗師屋・中之)
- 12区 (坂・大徳寺)
- 13区 (新・天理)

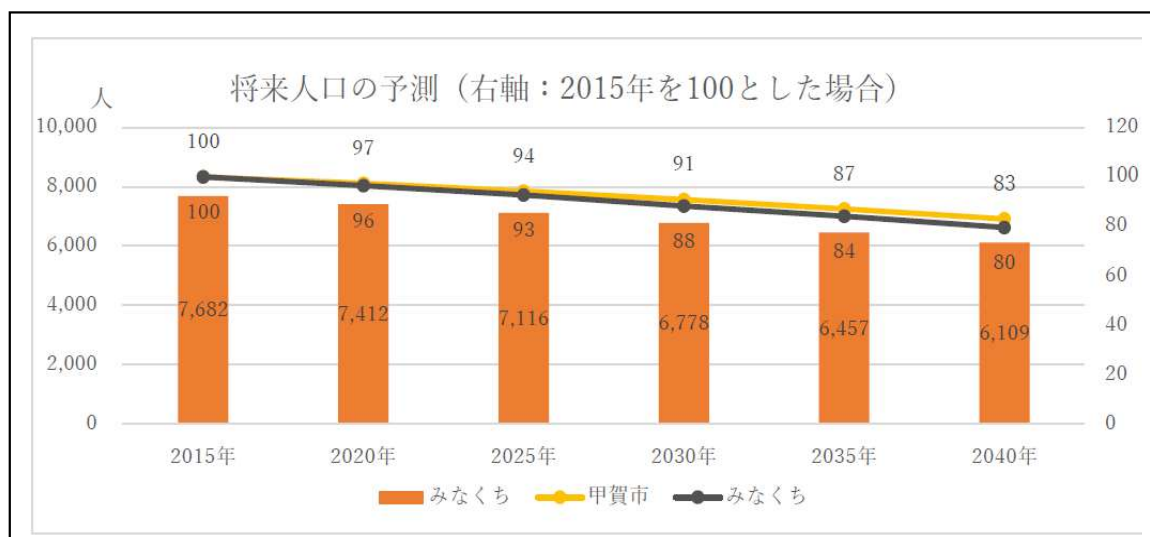
朝日が丘（旭・岡山・車谷利平）
 古城が丘
 東古城が丘
 古城が丘緑
 岡の郷
 松尾
 松尾団地
 水口松尾台
 古城が丘南
 幸ヶ平
 警察官舎
 古城が丘団地
 車谷
 秋葉北

II 水口学区の現状と特徴（地域カルテ等から抜粋）

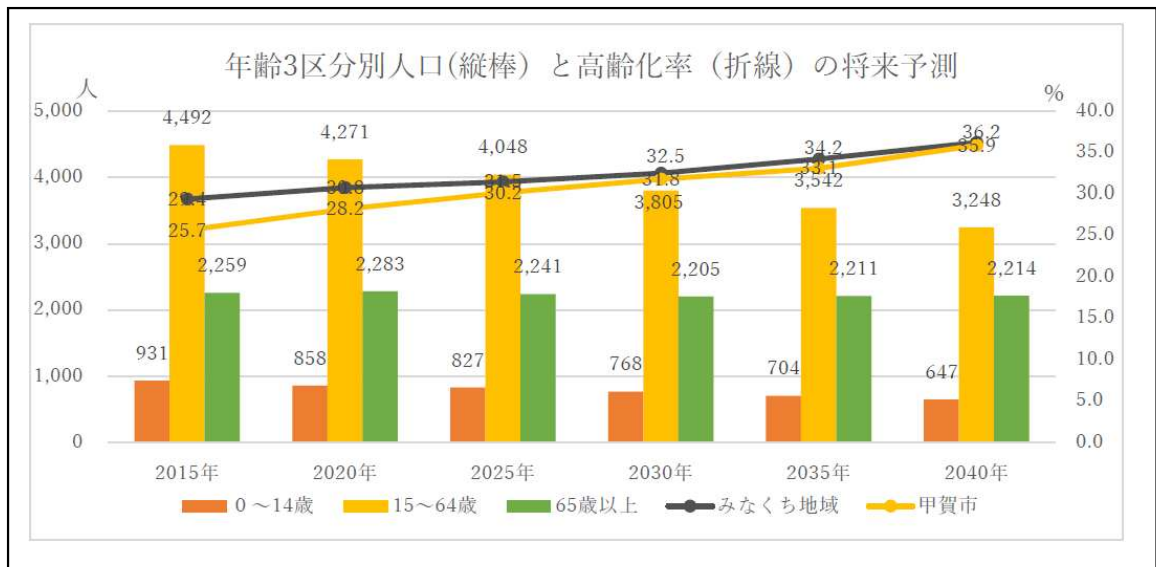
議論を進めるうえでは、客観的に確認できる統計や推計、総合計画等の行政計画やそれに基づく中・長期的施策などを委員が共有する必要があります。また、水口学区固有の文化や風土、歴史や地域の沿革などは地域住民の暮らしに連綿と息づいており、まちづくりにおける大切な地域資源として大切に継承するとともに、それらを積極的に活用することが求められます。

そのことから、以下3項目に水口学区の特徴を示し、検討委員のコンセンサス(共通理解)を図ることとします。

1 人口統計、推計・人口分布等からの考察



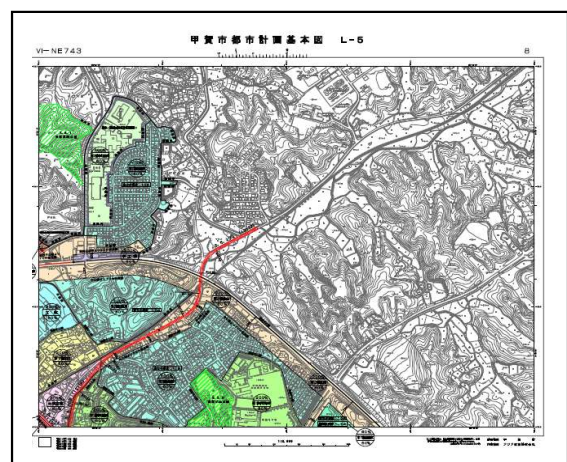
- ・水口学区は国勢調査による人口集中区(DID)です。
- ・小地域別にみると、人口が増加している地域があり、20年前と比較して増加率が高い地域は順に、新町一丁目(53.1%)、神明(37.3%)、鹿深(26.8%)、暁(20.9%)、水口(16.2%)となっています。

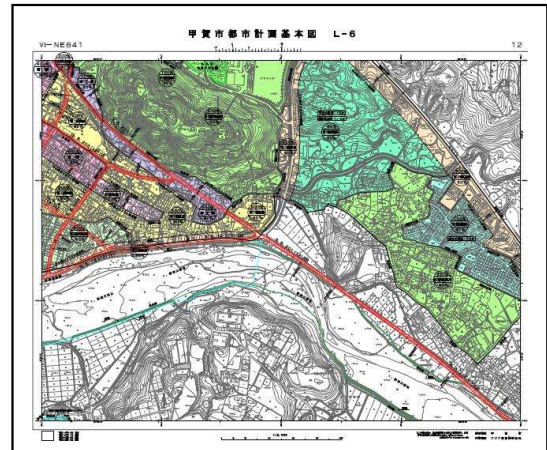
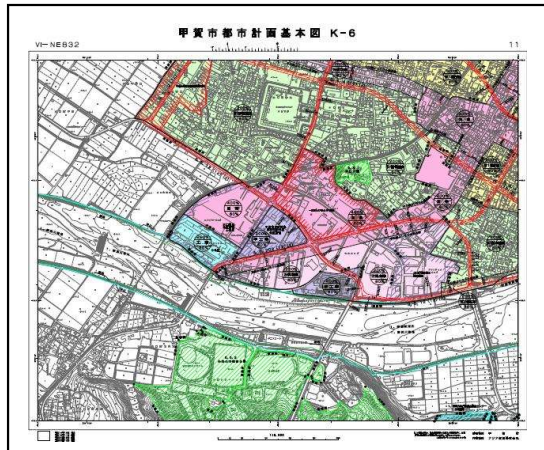


- 2020年のみなくち地域の高齢化率は32.1%で甲賀市全体の28.6%より3.5ポイント高く、高齢化地域です。2040年の将来予測では甲賀市全体の35.9%と同程度の36.2%になり、地域で見守り支えていくなどの課題があります。
- 将来予測では少子化が大変深刻であることがわかります。
- 小地域別の将来予測をみると、本町二丁目と新町一丁目は、逆に今後5年ごとに高齢化率が低くなっていきます。
- 年少(0～4歳)人口の将来予測では、ほとんどの小地域で減少傾向となりますが、本町二丁目、鹿深、新町一丁目では増加傾向です。
- 2015年の国勢調査結果から算出した2020年の年少(0～4歳)人口の将来予測は、水口地域で278人であったが2020年の国勢調査の実際の数人は315人で37人多く出生しています。

2 都市計画・国土利用計画・道路計画等による位置づけ

- 甲賀市都市計画においては松尾の一部を除く大半が市街化区域であり、現状を鑑みながら、住居、住専、工業、準工業、商業、近隣商業等、多様な用途に色分けされています。
- 甲賀市都市計画では三筋と並行した街路(都市計画道路)が計画されています。
- 国土利用計画の構想においては、将来的にも宅地と位置づけられています。





3 歴史、文化からみる水口の沿革

- 水口学区には、旧宿場町の風景や神社仏閣等観光資源があり、年間を通して訪れる人が絶えません。

水口曳山まつり…県指定無形文化財
 水口祭の曳山（13/16基）
 水口岡山城跡…国指定史跡
 旧水口図書館…市指定文化財
 三筋の町からくり時計
 東海道水口宿東見附跡
 東海道水口宿高札場跡
 水口宿本陣跡



水口まつり宵宮風景

- 水口祭りで巡行する曳山のうち 13 基が町中にあり、伝統文化の伝承に尽力されていますが、中心市街地の人口減少や高齢化により、伝統文化の伝承・存続、東海道の街並みの保存等に課題があります。
- 宿場町・城下町としての道路形態が残っており、道路が狭く見通しの悪い交差点が点在していて、高齢者や子どもたちの通学における交通安全の確保や防犯、また、自然災害に対する防災面での課題があります。
- かつては甲賀郡の郡都と呼ばれ、国や県の機関が集中していました。今日も税務署や裁判所、警察、市役所、消防等の公共機関が立地し、近隣に金融機関、病院、大型商業施設、コンビニ等多くの施設が充実しており利便性が高い地域です。
- 保、幼、小、中、高が地域内にあり通学通園に便利な地域です。

III 検討経過

1 区長会と自治振興会、しろやま宣言との関係

水口学区内には行政区等設置規則に定める 28 の区・自治会と、自治振興会規則

に定める「みなくち自治振興会」の、大きく2種類のコミュニティ組織が重なり合っ
て存在し、それぞれの位置づけや役割は甲賀市まちづくり基本条例で定義づけられて
います。

地域別グランドデザインの策定においては、その推進方針に「主体は地域（自
治振興会）」と示されていることから、市の推進班員が自治振興会の役員に説明する
とともに、学区全域の区長会議や区域内3ブロックでの区長会議を開催いただき、市
施策への取り組みに対する共通理解を図りました。併せてそれぞれから検討委員を選
出いただき、令和4年11月、基本的に自治振興会や区長会とは別の組織と位置づけ
た水口学区地域別グランドデザイン検討委員会を立ち上げました。従ってこの会の運
営や事務は、地域別グランドデザイン検討委員を兼務する市の推進班体制において行
うこととしています。

なお、みなくち自治振興会においては「しろやま宣言」という地域計画に沿って水
口学区全域を対象とした活動が進められていることから、地域別グランドデザイン
との違いやその必要性の是非について意見がありましたので、第1回検討委員会で、
以下の点における共通認識を確認しました。

- ①地域別グランドデザインはみなくち自治振興会の「しろやま宣言」を補填・補完す
るものであること。
- ②地域別グランドデザインの内容は「しろやま宣言」に包括し、みなくち自治振興
会が実施主体となること。
- ③市は検討委員会の活動ならびに成果品を住民に広く周知し、理解を得るとともに、
取り組みへの理解と参画をえること。

【区・自治会】

- ・28の区、自治会の内、旧市街地に所在する(通称)番号区は、「町」と呼ばれる小
さな地縁コミュニティが複数集まって形成されており、市内の他区とは違った形態
の区といえます。番号区はおそらく昭和30年代に行政主導で形づくられたものと
推察できますが、その経緯を確認できる資料や文献は見当たりません。
- ・番号区の区長は、区を構成する町から輪番で選出され、任期は1年が慣例となっ
ています。
- ・「町」は古くからの地縁コミュニティとして、現在も愛宕信仰、地藏盆、「おこな
い」などの年中行事はもとより、水口神社の氏子として、曳山の維持管理やお囃子
の練習に努め、県指定の無形民俗文化財「水口曳山祭」の継承に努めています。
- ・古城山北西には昭和40年代から平成中頃にかけて開発された住宅団地が広がっ
ています。最も古い開発の古城が丘地域はの中で複数の区に分かれています。松
尾地域は開発区域ごとに区が独立しています。

なお松尾区は古くからある大字区として、開発された地域を除いて古くから単独の

地域コミュニティを継承しています。

- ・区の区域は現在の地名と関係なく、その境界は曖昧です。また、集合住宅の住民の多くは、町や区に加入していません。
- ・「町」は水口神社の氏子中です。その内、水口学区では13の町が曳山を所有しています。曳山がない町も水口囃子の継承に努めています。

【みなくち自治振興会】

- ・平成23年に行政主導で立ち上がった地域まちづくりの協議体です。門戸開放型で、区・自治会をはじめ各種団体やNPO、ボランティア等地域活動に関わる組織・団体及び個人の誰もが参加、参画できます。区・自治会のようなメンバーズ(会員)組織ではありません。
- ・市が交付する自治振興交付金を財源に組織運営ならびに活動を行っています。

2 ワークショップの振り返り

第1回検討委員会で、会の主旨・目的や進め方を確認しました。

第2回の検討員会では3班に分かれてワークショップをおこない、委員それぞれが気づく地域課題、困りごとをフランクに出し合いながらポストイットに書き込みました。それを地域、行政、協働の3つの主体に分類して模造紙に張り出して発表し、検討委員全員が共有しました。

◎第2回検討委員会 地域の課題や困りごとの洗い出し

〔1班〕《発表：吉田》

地域の課題

- ・コロナ禍ではあるが3年ぶりにお囃子の練習ができた。やはり継続していかないと伝承できないという課題がある。
- ・消火訓練がコロナ禍でできない。何か起こった時に心配である。
- ・町内の若い衆がいなくお祭りに関わる人が育っていない。
- ・区、町内の役員のなり手が少ない。お世話をする担い手が少なくなっている。
- ・子どもが少ない。子育て世帯が少ない。
- ・地域のコミュニティが希薄化している。住んでいる人がそこに興味がない人が多い。興味を持ってもらえていない。
- ・老人クラブとかの新規の加入者が少ない。
- ・世帯人口がだんだん減ってきて、高齢化にもなってきて区や町内の運営、役員のなり手が少ない。このあたりが地域での課題です。

行政の課題

- ・バスが不便。コミュニティバスがたくさん走っているが、どこか1か所に集中して、そこへ行くというところへ行けるというハブ化ができていない。貴生川駅が起点、終点としてバスが出ているかもしれないが、例えば甲賀病院や市役所がハブになっているところに行けるようにしてはどうか。
- ・あわせて高齢者の交通手段、免許の返上で高齢者の車での移動が減っている。危ないからと自主的に乗られない方もいるので高齢者の交通手段をどうするのかという課題。
- ・市でも道路の維持補修をしていただいているが、まだまだしてほしいところが沢山ある。地域に

もっと予算を配分してほしい。

協働の課題

- ・賃貸物件、アパートに住んでおられる方が多い地域もある。その中で生ごみの分別ができていない所があるので、区が管理している専用回収容器が利用できるようにできないか。
- ・一人暮らしの高齢者が通院や買い物で困っておられるので何とかしてほしい。
- ・コロナ禍で人と人との交流ができず、顔が見えにくくなっている。その中で一人暮らしの高齢者の見守り支援も大変である。
- ・子ども会の分団に区、町内に未加入の世帯がおられて、だんだん増えてきている。区入りされていけば顔が見えるが、住んでおられてもどんな方がわからない。
- ・今郷で湧水が出る場所があった。そういったところを知っているのであれば、東海道を散策される方に情報を提供できないか。
- ・空家がだんだん増えている。管理が不十分で危険な物件もある。
- ・この会もそうだが、いろんな会があるのに何をしているのかわからない。私らもこういう会議に参加しているが、広く区民に情報提供をしているかということもそうでもない。広く市民に知っていただくようにした方が、いろんなことに協力してもらったり関心を持ってもらったりすることができると思う。

〔2班〕《発表：久保田》

地域の課題

- ・みなさん共通かと思うが、少子高齢化それから人口減少ということが意見となっている。例えば高齢者が増えることで区や町の役になり手がいないとか、地域の神社、それから祭りの担い手が減ってきている。
- ・それから子どもが少なくなって、住民同士のつながりが希薄になっていくのではということ。
- ・役になり手がなかったりしますので区の統合が将来必要になってくるのではないかという意見が出た。
- ・親の介護というのも地域、それから各家庭の課題。

行政の課題

- ・空家、空地の対策。所有者が他府県で草が荒れ果てているところの対策をどうしていくのか。
- ・地域の方でも、生け垣がすごく邪魔になっているのをどうするのかという意見があり、行政、そして地域に関しても空家の対策を考えていく必要があるのではないか。
- ・人口減少については、医療予算の増とか税収の減をどうしていくべきかというところを行政の方も頭を悩ませているという意見が出た。
- ・医療・介護に関して、休日医療や在宅医療の体制づくり、これは病院とか医師会にもかかわってくるかもしれないが、行政の方もこういったことを考えておられる。
- ・1班でも話が出た公共交通の不便さということでは、ダイヤの少なさ、ルートが少ないのではないか。

その他の課題

- ・野良ネコの問題、糞害。飼い主が野放しにしている場合もあれば、野良の場合もある。この糞害をどうするか。
- ・総じて、人口減少とか空家対策というところがメインになって、それに付随する詳細は、主に人口減少、空家対策、それから税収、医療といったところ。

〔3班〕《発表：西村》

地域の課題

- ・ざっくり言うと担い手不足、人がいない、高齢化しているということ。これから地域、自治会、振興会どうなるのかという心配の声が大きい。
- ・お祭りにしても人手が不足している。何も役をしたくはないとかは、先（1班・2班）の話と同じ。

- ・その中で、逆に区とか自治会がなくなったとしたらどうなるのかという心配がある。そういう極論も含めて、おそらく新興住宅地の方とか若い世代、高校生とか、そういう人からは自治会いらぬという意見があると思う。たぶん資料のアンケートにも出ていたと思う。そういうことまで含めて考えていかなければならないという問題意識がある。

協働の課題

- ・空家の問題、ほったらかしについての問題。
- ・あとは防災。防災が大事なのはわかっているけど、担い手不足も関係して、自主防災組織はあるけれども訓練してないとかできてないとかで、形だけ名前だけ。あるいは消防団員、私も入っているけど人員は減少、じゃこれからどうするか。
- ・居場所づくり。高齢者の生活支援とか子どもの見守り、若者の出会い場作りとか、そういう場所の設定をどうするのか。地域だけでできる場合もあるし、行政が設定しなければいけない場合も出てくるであろう。

行政の課題

- ・特に予算措置があるであろうという意味で離して考えると、やはり道路の問題、旧 307 号線の道路幅が広くはないし、危ないという問題。
- ・水口駅周辺の整備とか。
- ・曳山の老朽化は、なかなか地域だけではできず、行政の積極的な補助が必要だろうという意味で問題。
- ・公園の整備とか。

◎第 3 回検討委員会 地域の課題や困りごとの分類、テーマ化

前回のワークショップで出た意見を分類してテーマ化し、その結果、班別に整理しました。類似のテーマを横に並べると以下ようになります。

1 班	2 班	3 班
<ul style="list-style-type: none"> ・若者の定住化 ・若者が活躍(楽しめる)できる場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な組織体制と人材確保、育成
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てが楽しくなるまちづくり ・高齢者の居場所づくり、環境整備 ・高齢化対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子・高齢化 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な組織体制と人材確保、育成
<ul style="list-style-type: none"> ・区、町内会の役員見直し、行事見直し ・役員の担い手不足 ・集まる機会を増やし顔見知りをつくる ・町内会の合併などを考える ・地域の人が集まり楽しむ行事をする ・地域コミュニティの希薄化 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者課題 ・若者課題 ・子ども課題 ・コミュニティの創出
<ul style="list-style-type: none"> ・空家の活用化 	<ul style="list-style-type: none"> ・空家対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・空家・空地の管理、利活用
<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関を便利よくする 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通 	
<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達の欠如 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護 	
<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な街(道路) 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等の整備課題

・文化財の維持保存 ・伝統継承の柔軟化 ・お祭りに興味のある人を集める		
・景観の保全・形成		・地域文化
・地域防災力 ・防災意識の高揚	・安全	・防災
・観光資源の活用		
・現状調査	・その他	
・行政課題	・行政	

3 若者会議

地域の若者が、地域のことをどう考えているのか、率直な意見を直接に聞く場として、大学生2人、高校生3人に集まっていただきました。

市では毎年成人式で「あなたは今後、甲賀市に住みたいですか。ちがう場所に住みたいですか。」という二択の質問による聞き取り調査をしていますが、約2人に1人は「もう甲賀市にいない（住まない）。」と答えています。

はたして、水口の町筋に住んでいる若者はここに住み続けたいのかどうか、住み続けるためには何が必要なのか、何が不便か、何がダメなのか。限られた時間の中でしたが、若者が暮らしの中で感じていることを、率直に聞かせていただきました。

【若者の意見等】

《公共交通・施設などに関して》

- ・交通(草津線、近江鉄道、バス)の便が悪い。
- ・駅周り(貴生川駅など)に商業施設がない。
- ・人が集まってくるためには、駅周りの発展が大事。
- ・貴生川駅にはフリーWi-Fiがあるけれど使わない。
- ・駅に十分な座る場所や自習スペースがあるとよい。
- ・駅の中にコンビニがあると便利
- ・若者向きの喫茶店が近くにできたのは大きい。学生が多い。

《水口祭りに関して》

- ・町によってお囃子が少し違う面白さをみんなに知ってほしい。遠くの町(片町・田町)まで行ってみようと思ってもらえるような何か工夫が必要である。

集まれ 未来のリーダーたち!
水口学区「若者会議」
 テーマ「20年後のあなた、何処で何してる?」



少子高齢化、人口減少が進む中、自分の将来やこれまで暮らしてきた地域をどのように展望しているのか、自由に意見を話し合おう。

日 時：令和5年4月29日(土曜日) 午前10時

場 所：水口中郷コミュニティセンター 和室
水口町八坂7-4

対 象：水口小学学区に居住する概ね18歳から25歳までの男女



主催 水口学区ランドデザイン検討委員会
水口地域市民センター内 電話 65-1734

- ・水口祭りのPR(ポスター)がここ(水口町)しかなく、知名度が低い。
- ・曳山のある町内からない町の人に向けて、お囃子をやってみないかという誘いの声掛けを活発に行う。
- ・祭りの当日(19日, 20日)に、境内でお囃子の体験会をしてはどうか。
- ・各山蔵をオープンに開放して、お囃子の体験会をすると身近に感じることができると思う。
- ・お囃子はインターネットでPR
- ・スタンプラリーは小中高生全員に配ったらどうか。
- ・著作権の問題があるかもしれないけれど、インターネットに上げたらよいのでは。
- ・露天商をあいこうか市民ホールの駐車場の方にも出すと神社にも人が来るのでは。
- ・今年は、ゴミ箱が完備されていてよかった。
- ・境内にベンチのある屋根付きの休憩スペースがあると食べながらお囃子がゆっくりと見られるのでは。
- ・曳山がある町にとっては、旧町名の知名度を上げていきたい。

IV 取り組むべき喫緊の課題と解(方法)

1 4つの地域課題とその解決策

ここまでのワークショップや若者会議をとおして、水口学区の特徴や課題が多岐にわたり顕在化してきました。これらの中から、みなくち自治振興会の地域計画「しろやま宣言」を補填、補完するという地域別ランドデザインの所期の目的に沿い、地域計画書になく、また地域内で普遍性のある以下の4点を検討テーマとして絞り込み、その解決策等について議論を深めました。また、地域の役割だけではなく行政が担うべき取り組みについても整理しました。

1	地域ソサエティ・コミュニティ
2	空家、空地
3	移動・移送、公共交通
4	子ども、若者

1-1 地域ソサエティ・コミュニティ

現状・課題の確認
<ul style="list-style-type: none"> ・区役員のなり手がない ・コミュニティが希薄化している ・後継者がいない
検討過程、論点
<ul style="list-style-type: none"> ・区自治会の再編 ・加入促進
委員の意見

第5回検討委員会から

- ・コミュニティのことは地域の中でできることが一番良いが、行政なり他のところと一緒にやらないといけないことがある。それを出し合わなければならない。
- ・水口の区は小さな町が集まってできている。町は独立している、町も財源をもっている。曳山の町はその曳山で町コミュニティを持っている。
- ・定年制が伸びたために、働くことが中心。生活がかかっているので、70歳でも働いておられる。そういう現実もあって役員のなり手がない。
- ・自営業が少なくなった。農業をしているとか、商売をしている人が今まで比較的時間に融通をつけて町内の役をしていた。今はみんなサラリーマンになり、夜9時を回らないと帰ってこない。消防団がそうだ。名前だけで、だれも消防自動車を動かさない。
- ・区、町内会の役員の見直し、行事見直し、役員の担い手不足という問題が提起されている。東部と中部は区の中に町内会があって、町内会が地縁でいろんな財産を守ったりしているが、区自体はそういうものがない。北部の区もそういうものがない。
- ・役員の担い手不足は、やはり規模が小さいから。規模を大きくすると役員になってもらえる人材がたくさん出てくる。町内会を合併するのは非常に難しいが、区を一つにするのは可能ではないか。
- ・みなくち自治振興会には28の区、自治会がある。それを極端に言えば半分くらいにして、そこから役員を出す。要は28を14にして、そこから自治振興会の役員なり会長を選べば、選出しやすいのではないか。無理なところもあると思うが、できるところもあるはず。
- ・東部、中部、北部の3つくらいに再編すればよいのか。なかなか大きい。
- ・それと、することの整理。10軒ほどの町内で、敬老の行事をやる。そういうものを区1本でやると町内の仕事も減る。サラリーマンの若い人でもできる。その代り区全体できちっとやる。
- ・溝掃除や消防訓練は、やれと言われても町内ごとにできない。町と区の仕事の整理も必要。区同士が合併すれば一緒にできる。
- ・1年間役員したが、覚えているのはその役員の方々だけで、動ける人も少なくなり高齢になってきている。敬老の日のお祝いを配ったとき、目が見えないので回覧板を飛ばしてくださいとか、そういう方がおられることも役員をして初めて知った。
普段から話をしたり、関わりがあるかといわれると、やっぱり住んでいるだけになっているとすごく思っている。(松尾団地)
- ・地域によってみな事情が違う。伴谷でも子どもが多いときは神輿を作ったり、にぎやかにやっておられた。ところが、みんな大きくなってしまったから、もうする人がいなくなっている。
- ・同居は少ない(松尾団地)
- ・最初は東部、中部、北部という3つの地域を1つのコミュニティにして、そこから代表者を出して大きな組織を作っていく。
- ・もっと手当てを出す。お金をもらったら動かないと悪いように思われる。
- ・町代さんを集めて配り物なり周知ができる会議の場所が必要。
- ・一つの大きな組織を作る。そこにぶら下がる町代さんを1か月に1回集めて、会合なり配りものなり、地域のコミュニティを図る拠点が必要ではないか。
- ・やはり東部コミセンか。何でここ(綾野地先)に自治振興会があるのか。綾野は中央公民館がある。
- ・ここができたのは、綾野と水口がいずれ一緒になるから、真ん中(中部コミセン)に持ってきたと聞いた。新しく中央公民館ができるからそこに行ったらよい。綾野まちづくり協議会とみなくちまちづくり協議会が一緒の部屋でもよい。
- ・まちづくり協議会を綾野とみなくちを将来ひとつにするための手順としてあそこに持つていくのならそれでよい。
- ・町は生きていくけれど、小さいコミュニティばかりになる。東部は東部、中部は中部でそれぞれ一つの区にする。水口は3つの区。
- ・区組織がこういう形になるとして、加入者は今の状態でも少ない。形では会員になるが、区費という会費的なものどうしていくのかとか…。小さなコミュニティやと顔が見えやすいというこ

ろもあったと思うが。

- ・加入促進という課題も。
- ・地域コミュニティは町内会だけではない。いろんな団体なり、お年寄りが集まって話ができる場、拠点は、私は東部コミセンを改築してもらいたい。今は、ちょっと入って雑談でもしようかと思ってもできない。
- ・ボランティアというけれどもお金は要る。そういう時代になっている。
- ・「ひこそこめ」は必要だと思うが、福祉協議会とか交番の（広報）とかが区長文書の中に沢山入ってくる。そういう仕事の整理もすべき。
- ・まったく行事がない区で、役職が当たっていない、ただ配りものだけの区長さんがおられる。溝掃除や草刈りもない、みんな町でやっているから。だから、いま言っている合併を進めていくべきだと思う。
- ・旧水口に関して言えば、小さい町を残して区を再編する。小さい町を再編しようと思うと大騒ぎになる。それは江戸時代からの組織。役員のみ手がないということだが、しやはる。女の人が町代になってもみんなが手伝う。一番小さい町でも何とかやっていると、皆がちゃんと段取りをしているから、それはそれでいいと思う。区は再編しようがあると思う。
- ・財源としては区活動交付金しかない。みんなからもらうとなると「従来から取ってないのに、なんでそんなもん取るね！」となる。区活動交付金を上手に活用すればできると思う。
- ・自治振興会と一緒にしてしまえば、予算的にもかなりあるし、いろんなこともできる。
- ・一つにしないとあかん。令和6年度から一つで、若い人材を入れて。
- ・北部だけはどのようにコミュニティを作っていくか、北部は難しいと思う。
- ・コミュニティの希薄化と書いてあるが、コミュニティをしようと思うと何らかの目的で人を集めてお話しし、いろんな人の意見を聞く。見ているだけで終わっていたら進まない。
- ・今は子どもがいなくなったから、そういう地域のつながりがなくなった。
- ・なんかのテーマで集まってもらうことが必要やと思う。これから年寄りの世界になってきて、支えあう、助け合う時代が来ると思う。
- ・だんだんと人口が減ってきて、なおかつ若い人が少なくなって年寄りばかりになってくると、何らかの形で支えあわないとあかん時代になる。支えあうにはコミュニティをしっかりとっておかないと、全然知らない人を助けるということとはできない。だから、気心を知るための場所を提供してあげなあかん。
- ・赤いベンチが置いてある。あれに年寄りが2,3人座って、そばを通ると「区長さんご苦労さんですなあ」とか声をかけてくださる。
- ・東部コミュニティセンターにきれいな物を置いておくと、お年寄りが寄ってしゃべると思う。
- ・大津では、自治会のないところは放っておけ、市の広報も配るなど。配ってほしいと言ってきたら、組織を作って窓口を作れと言おうという話をしたことがある。

第6回検討委員会から

- ・（区の再編について）例として、区活動交付金をひとまとめにして、そこから従来からやっている活動をする。また一部、役員報酬に使うお金を捻出してもらおう。仮に、ひとつの区に10万あったら5万は報酬に、5万は全体事業費に充てるなりする方法で。
- ・よく考えると区をなくすことは難しい。区の事業があり、区への思いもある。
- ・各区がいろんな事業をしているから、再編は無理という、解決策にならない。どこの区も世帯は減ってくるので一つの解決策として大きな区にしていくことの必要性を考えている。要は役員のみ手がないのが現実。従来からずっと続いているものを変えるのは難しいが、役員の有償化なども併せて考えていく。
- ・コミュニティを作るのに、催しとか場の提供とかあるけれど、場の提供というのは活動の拠点という意味を含むか。
- ・活動の拠点はやはりみなくち自治振興会エリアにないといけない。
- ・東部コミセンか酒造会社の土地に施設を設置し、そこでいろいろな活動ができるようにしたい。
- ・新しい施設建築は市の提案に逆行する。建築中の中央公民館に綾野と一緒に入って、いずれ綾野と一つになる、他所ではもっと大きな枠で振興会ができていく。子どもがいなくなって

きたら学校の再編も考えなければいけない。
 ・コミュニティづくりでは昔やっていた運動会等、区の行事の復活。

解決の方法	
① 区の再編（東部、中部、北部の3つにする）	○ 町の統合はしない（できない）が、区の再編はできる。ただし再編が難しい地域、区があり一律にはできない。（再編案は市が提案、地域との調整）
② 新たに建設される中央公民館に、みなくち自治振興会の活動拠点を整備（綾野と水口の合併）	○ 東部コミセンか酒造会社の空地に市が施設を設置する案。 ○ 新しくできる中央公民館を拠点とする案。その際に振興会の枠組み（合併再編）を考える。
③ 役員報酬の支給	○ 自治振興交付金（区活動交付金や区長事務費）の活用 ○ 町が区に払う負担金の見直し、運用。
④ 区の行事の復活（運動会、球技会、旅行など）住民のつながり（顔が見える関係づくり）	○ 現在の町、区の事業はその地域判断で継続 ○ 活動の拠点施設の整備が急務

市の施策	
継続	○ 自治振興交付金の制度見直し、弾力的運用
新規	○ 拠点施設の整備 ○ 市が区に依頼する業務(文書の配布・回覧、民生委員等役員選出)の整理、縮減

1-2 空家・空地

現状・課題の確認
<ul style="list-style-type: none"> ・空家、空地が増、中には倒壊の危険があるものも。 ・景観を損ねている。 ・空地に集合住宅が建ってもコミュニティに地域参加しない。
検討過程、論点
<ul style="list-style-type: none"> ・空家、空地の利活用 ・空き家にならないようなまちづくり ・人に来てもらえるようなまちづくり
委員の意見
<p>第5回検討委員会から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年7月の調査では、水口町全体で423戸の空家等があるという調査結果が出ている。空家等というのは、建物だけではなく敷地も含まれる。 ・市では令和3年3月に『甲賀市空家等対策計画』を作成して対応している。この計画の理念は、「みんなで空家等を予防、活用、適正管理をしよう。」ということ。 ・3つの対策の柱があり、まず、空家等の発生予防、二つ目は、空家等の跡地の活用、三つ目は空家等跡地の適正な管理である。つまり「予防」「活用」「管理」この三つを柱として市は取り組んでいるということ。

- ・この計画を実行するには市だけでは無理で、市民の方、地域コミュニティ組織の協力が必要であるということ。
- ・市の具体的取り組みが「空家バンク」。空家を売りたい、貸したいという方に登録してもらう制度。現在の登録状況は甲賀市全体で9件、水口町は北泉2丁目の1件だけで、信楽町で3件、甲南町で3件、土山町で2件です。へき地の農業集落のところが多。9件とも貸すというよりも土地、家とも売るといふ物件。
登録物件は市が仲を取り持つということだが、市民の方や区、自治会、自治振興会など地域コミュニティの情報提供が必要ということ。
- ・市は空家、空地の調査をされていると思うが、区や町の役員に持ち主が誰なのか等の情報が無い。草が生えて近所に迷惑をかけていても勝手に敷地に入ることにはできない。連絡先等の情報を下ろしてほしい。
- ・不動産業者へ情報を流せるような体制も必要ではないか。水口駅前に空家があったが、この前更地になった。不動産屋を通して売りに出されているが買い手はまだない。
- ・敷地が広いところであればアパートを建てて、そこを貸しているというところはかなり増えてきている。
- ・新町でもアパート住まいをされている方が多く、そういった方は町入りされない。13区で80世帯が区入りされているが、アパートの世帯はその倍、160から170世帯ある。
- ・新町の人口増加率は高い。昔から土地をたくさん持っておられて資産運用でアパート経営をされたりする方が出てきた。そこはアパートが建っているから空家、空地の問題はないが。
- ・空家バンクについても区の役員をしている人でも知らない人がけっこう多い。もっとそういう情報を流してもらわないとあかんと思う。
- ・（空家の草刈り等）一度かかわったら以降みんな地域でやることになってしまうので、持ち主に聞いた上で、どうしてもできないと言われるのであれば区や町の役員に頼ったらよいけれど、勝手にすることはできない。こういうケースが他にもたくさんあるのではないかな。
- ・まず、情報を下まで流さないとあかん。
- ・行政がメインで動いても追いきれないこともあるし、地元に行けば情報があることもある。
- ・不動産屋はそういう物件をすぐに見つけてくる。アパートを建てるのに、地主のところに行くと。本気度が違う。お金になるから、その違いか。
- ・市としてはどんどんアパートがたっても「良し」という考えか。観光資源にはならないが、税収があるからよいという考えか。どういう街づくりをしようと思っているのか。
- ・日野町は、ひな祭りなど観光シーズンのときに空家で蕎麦屋をしたり、市外から来てやっておられる。水口宿辺りはそういった店がほとんどない。水口祭りのときに料理屋が来ていたが、そういうものと空家の再利用をマッチングしていくべき。
- ・空家バンクの登録が水口は1軒ってなんでこんなに少ない。知らないからか。空家が423戸あるのに明らかに少ない。
- ・所有者を調べて連絡を取っているのか。空家バンクがあるという話をしてあげていたら登録するかもしれない。市が打診をしたかどうかだ。
- ・空家バンクに登録した方が良いのか、更地にした方が売りやすいのか。
- ・街中であれば更地にした方が売りやすい、農業集落のところは市街化調整区域とかで難しい。水口は道路があつたらまあ売れる。登録されている物件はへき地のところが多い。
- ・土山からけっこう水口に出てきている。
- ・貴生川の駅の周りに来たりとか。駅の近くの寺庄とか。
- ・地元なら所有者は大体わかる。日ごろから市に区から情報を上げていかないとあかん。
- ・結局、町や区と行政との情報を提供することが大事。
- ・ホームページを見て情報を提供しようと思っても書類をいっぱい出さないといけないと「もう辞めておこう。」になる。
- ・解決策だが、地元で空地、空家を活用するというような計画はないか。
- ・例えば松尾区は空家、空地を買い取って、管理をしながら老人の憩いの場所としてそこを使っている。隣接するところはグランドゴルフ場を作った。松尾台が開発されたときに、金が松尾

区に入っている。そういう面では裕福。

- ・区で買おうなんてことは無理。その分町内会費が増えるとか。
- ・期限を切って広場として区で管理するので貸してもらおうとか。
- ・区で管理できる空家、空地を考えることが大事。お金が要る。
- ・市が買い取るということはあるか。
- ・普通はない。
- ・日野駅のように喫茶店であったり、高校生や中学生が集まって話ができる場であったり、年寄りがしゃべりに行ったりできる場所など、そういう活用方法もあると思う。水口駅には何もない。
- ・先日の若者会議でそういう意見が出ていた。
- ・子ども食堂をやるかとも思っている。酒を飲むだけでなくいろんな情報を求めてこられる人もいる。そういう場所が大事。
- ・具体的なモデルがあればやりやすいと思うが、何か一つ作ったらいいと思う。
- ・駅前がいいと思う。
- ・電車を待つ時間に使えるし。
- ・地元高校の生徒が商品を開発して、その喫茶店に置いている。
- ・酒コミュニティも大事なことである。こういう場で新たな情報も得られる。コロナで3年間、町内の行事もなく集う機会がなかった。そういう場で空家の情報も得られていた。
- ・駅前は人が集まりますが、そういう良い場所でない空家はどうするか。
- ・催しをするとか、定期的に来てもらえるような工夫が必要。
- ・自治振興会の(ギャラリー&アトリエ つづら)、空家を自治振興会が借りていると聞いている。三筋の街中は今、空家が多い。
- ・古城が丘はけっこうある。昭和38年くらいにできたのでお年寄りが多い。空家も相当出ているのではないか。
- ・松尾団地も古い。
- ・民生委員が情報を持っている。区入りしていない世帯、町入りしていない世帯の情報はつかんでいる。
- ・国も空家、空地対策で情報提供をできるようにしてきているみたい。行政としてはそういうことをしていかないとだめ。法整備もしなければならない。
- ・家を解体すると土地の固定資産税が上がるので、みんな家を壊さない。けれど、それを改善するには行政は動いているみたい。
- ・解体代は自分で払わないとだめ、(高い)。
- ・家が朽ちてきて特定空家に指定されると、固定資産税を上げるという策を国はやっているみたい。

第6回検討委員会から

- ・そもそもの話だが、空家対策をする前に、市内の若者や他所の人が住んでもらいたい街にすることを議論するのが先決かなと思うのだが。
- ・東近江で数年前にアイドルのコンサートをした。そうすると、アイドルに興味のある子は、何度も訪れるようになる。例えばそのときにアイドルが訪れた神社やお店に1年後、2年後、3年後にも来ている。都会に住んでいるけれども、この街がいい、こんな田舎に住もうかと思う子も中には出てくる。それが街づくりと思う。そういう人に空き家を紹介するのはわかるのが、何もせず空き家をどうしましょうといったところで、マッチングしない。
- ・水口から出ていく人間を止めるのと、入ってくる人間を増やさないと。市の方でスポ森を開放してそういうことをすべきと思う。
- ・テレビの影響は大きい。スカーレットや映画のロケ地など、要するに水口に来てもらう、住んでもらう、住んでもらうのもアパートでなく空き家に永住してもらう魅力のPRをしていかないと。空き家を利用して宿にするのも一つ。
- ・空き家バンクの登録には書類をたくさん出さないといけない。書類が多いと、今の人は煩わしくて「もういいわ。」となる。そのあたりも市は考えた方がいい。

- ・若い子は出ていくばかり。大学へ行ったらそのままもう帰ってこない。帰ってくるような魅力あるまちづくりをしたら、奥さんや旦那さん連れて帰ってくる。そうすると空家、空地が出てこない。空き家が出てからの対策以前に、空き家が出ない対策をしないといけない。
- ・人が市外、県外からくるような仕掛けづくりをまずやって、水口なり甲賀市の魅力を示す、やはりそこからやらなければならない。
- ・高齢者になる、後継ぎは出ていく、つながり(コミュニティ)も希薄、空家になる、そういう悪循環がある。
- ・住みよさのランクが出ていた。調査内容はわからないが、もっと魅力のあることを発信して甲賀に水口に住んでもらわないといけない。
- ・やり方は、今はやはりテレビなりネットなり有名ユーチューバー。
- ・例えば、外国人は忍者はすごいと思っている。そういう外国人をインバウンドで呼び込む。市役所で2月22日に忍者の服を着られるが、何か内輪だけでしているように見える。
- ・東近江市のジャズフェスは毎年やってる。
- ・スポ森のスタジアムでコンサートをしてサッカー場を模擬店の場所にしたら、場所的にはいける。市からどんどんと情報を発信し、どんどんと街をアピールしないことには、空家は埋まらない。
- ・水口はけっこう便利なところ。車で10分も走れば、身の回りのものがすべて揃うこともアピールする。街なかには坂もないから高齢者も住みやすいといったところもアピールできる。

解決の方法	
①空家、空地対策は、市と地元との情報共有が必要	○ 環境や景観に影響する空家は地元住民の方が情報をもっている。市との連携・協力が必要。
②区や町が空家、空地を管理、利用する方法を考えることが大事	水口駅前、三筋町家の活用 ○ 水口駅前の空家は高校生・中学生を対象にした活用方法を考える。 ○ 三筋等の街中の空家は、高齢者や地域住民の居場所として活用したり、飲食店を行う。
③空家バンク制度の存在の周知	○ 地域と連携した制度の周知 ○ 手続きの簡素化
④空家を出さない対策	○ イベントを実施して市に来てもらい見てもらう。聖地化。 ○ 住みよさをPRする。 ○ 情報の事前発信、発信方法の工夫

市の施策	
継続	○空家バンク
新規	○空家バンク手続きの簡素化 ○特化したイベントの実施

1-3 移動・移送、公共交通

現状・課題の確認
・コミュニティバスが不便

検討過程、論点
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの利用促進 ・自動車に乗れない人の移動、移送手段
委員の意見
<p>第5回検討委員会から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しろやま宣言」にない課題。公共交通というと行政の話になるので、移動手段の確保というテーマで議論が広がればと思う。 高齢の方や障害のある方、免許のない方、学生のための移動手段を確保することが必要。中山間地域では移動手段がないので引越すという深刻なところもある。この辺りは恵まれているが、こういった問題点に対して、特にこの地域ではどうすべきか、公共交通、バスや電車の問題も含めて考えていただきたい。 ・行きたいときに行きたい場所へスムーズに移動できる手段で一番便利な公共交通はタクシー。市がタクシーの無料券を出すとみんなも乗ると思うが、なかなかタクシーの台数も少ない。 ・地域ボランティアで送迎サービスをしているところがあるように聞く。そういった活動がスムーズにできるような手法をとってもらえるといいがハードルがあって簡単にはできないと聞く。ボランティアでできる範囲はしれている。高齢者や車のない方などに対してどうしていけばよいのかというところ。 ・(バスは)利用者がいないと本数を増やせない。利用者はいつもの生活、病院や買い物に行くのがメインだと思うが、もっと働く職場があったら外部から電車に来てバスを使う。商業施設は土日に限られる。平日も使うとなれば職場への通勤。乗る人を増やすために、働く場所(企業)や商業施設の誘致が必要。 ・市の公共交通に予算がないのは、結局利用者が少ないから。毎日利用してもらおう職場、学校、利用する理由を作って、そっちを先に整備していくこと。(人口増加にもつながる) ・行政から見ると当然利用者がいないと減便や廃止になる。 ・甲賀市の面積が大きすぎる。水口の中心に住んでいるが、土山の奥に行くと、信楽の端に行くと帰ってきたら半日、1日になる。かつては、地域(旧町)で各々考えていたことを一括でしようとするのはどだい無理だと思う。地方を見捨てるわけではないが、地方の方は街に出てきてもらって、そこを充実していかないと街も活性化していかない。それにはすごく時間がかかるというのも分かっているが。 ・移動時間に1時間かかる場合、バスや電車であればその間に勉強ができるが、車を運転していると他のことが何もできない。公共の交通機関という話ではないが、基本的に何かをやっている間に、もう一つ違う仕事ができたら一番理想。 今、近江鉄道が地元利用者を増やすためにサテライトオフィスというのを車両の中に作ることを考えているとか。そうすると外に出ている仕事ができる、目的地についたら仕事が終わる。そういう利用のシステムを導入すると公共交通の考え方が変わると思うのだが。効率性や生産性が高くなる。 ・京都のように網目に走っているとよいが、1時間に1本では。 ・もっとバスを巡回させる等しないと。客が乗っていないバスをよく見かける。乗りたいときに乗れるとか、会社専用のバスを出すとかをすると、バスの利用者も増えると思う。 ・例えば工業団地の真ん中に一つ駅を作って、そこからは歩いて行かれるとか、「工業団地行き」を朝だけではなくてある程度の便数走らせるとか。 ・京都、大津、大阪の方から通ってくる方が多い事業者は、独自に送迎バスを持っている。 ・運賃500円で南草津駅から土山までの直通バスに乗れる。 ・なぜ土山なのか。水口とか貴生川とかであれば早くて便利。やはり、西を向いて出ていく人が多い。新名神に乗って500円は安い。 ・利用している人の声を聞くのが一番。アンケートを取るのとはすごく難しいが。 ・工業団地でアンケートを取った。ほとんどマイカーなので、今後事業所さんをお願いに行く。 ・公共交通もこれだけ使ったらポイントが貯まって使えますよ、といったメリットがあるとみな

さん使われると思う。ポイントをためるのが好きな人がいる。

- ・年配の方は、貯めるのが好きな人が多いかもしれない。
- ・ラッピングは。
- ・やっている。たくさんではないが。
- ・乗るお客さんのためだけでなく、新たな取り組みをしていかないと。
- ・公共交通だけでは回りきらないので、高齢者の移動を地域やボランティアでやっているところがある。10人くらいが2台の送迎車で送り迎えをしている。
それにかかる経費の半分くらい市が負担するような支援制度をつくった。水口でも地域の事業としてやってもらえないかと思っている。
- ・一度、社会福祉協議会から自治振興会でやってもらえないかという話が来たが、現役で働いている自分たちには無理。ならお年寄りの方にやってもらったらということだったが、もし事故を起こしたときにどうするのかなど、課題が出てくる。

(図に示して説明)決まった人達で、いつもこの人が運転します。この人が出かけるときには、3人に必ず声を掛けます。そういう方たちを団体に所属してもらい、お金を補助する。他にも、私が出かけるときには必ずお隣さんに声をかけるなど、そういうグループを作って登録してもらおう、というふうに自分は思っていた。しかし振興会でそれを管理することができない。難しい話だが、これができたら、勝手に広がっていくと思っている。相乗りというか、白タク状態、認可の白タクだという感じ。

〈フローで説明〉

システムさえきっちり出来たら、これは広がっていくと思う。これを民間がするかボランティアがやるか、信頼の持てるところにやってもらうのが一番だと思う。ここへ市からお金の補助を出すようにすればどうか。ニーズ情報を知っているのは民生委員。民生委員からの情報を集めるのは市でしかない。だから振興会が囁むことはすごく難しいと思っている。

- ・白タクなので、運賃、礼金は法律上渡せない。それをしようと思うと緑ナンバーになる。
- ・そこをどうクリアするかだ。これをボランティアでやってくれというのはすごく難しい。事故を起こした時の責任の問題もある。しかし報酬を何か考えないといけない。これをポイントにすると、もしかして抜けられるのでは。
- ・やっている方はお金目当てではない。誰かの役に立ちたいという思いでやってくれている。
- ・田舎では車がない、身寄りがない家に、近所の人が声をかけて一緒に行くという話を聞く。うちの店に買い物に来ている人に土山からバスで来て、いっぱい買って「悪いけど配達してくれる？」といって帰られるお得意さんは、ついでに送ってあげる。タクシー代わりにうちを使ってくれる人もいる。

第6回検討委員会から

- ・公共交通も限界があり、賄いきれないところに送迎サービスやボランティア輸送というものがあるのだが、そういうものを地域の支え合いでできる方法がないかというも思う。前回、買い物に来られた方を送っていくという話が出ていたが。

- ・100人が買い物に来られて全員をとというのは難しい。
- ・介護タクシーは、お金をもらっている。あれは事業か。
- ・介護保険サービスの中でやっている。
- ・甲賀市は広い。地域別ランドデザインなので、水口学区の中だけを回していくのであれば、送迎サービスが可能かもしれない。

例えば、うちの店に来て物を買ってくれたお客様に、「じゃ家まで送ります。」ではなく、このあとここまで行くからついでにここまでやったら送りますという声かけ、相手優先でなくてこっち優先で乗り合うことができればよいと思うことがある。

ヒッチハイカーは目的地を書いたものを掲げているが、運転者は目的地近辺までは行くという条件で乗せる。そこへは行かないけれどその近くまでは行くので乗っていきなよと、それと同じようなことが(地域でも)できるのではないか。

- ・それがシステム化できるといいのだが。

- 10人乗りくらいの小さなバスを頻りに巡回させてはどうか。手を上げたら止まってくれるような感覚で、バスを月いくらかで買ってもらって、それを持っておられる方だけに乗ってもらうとか。人を乗せて事故を起こしたらどうするのか、誰が責任を取るのか。お店間の巡回や送迎のバス、途中で降りてもよい、定員の10人が乗っていれば満員ですと止まらずに素通り、一人降りやったら9人やから乗れると、そういうふうにしていった方が僕はよいと思うが。
- 大型量販店も商売なので、そういうバスを用意して、お金がかかるところは何らかの形で手当てするような方法があってもいいのかなと思うが。
- それより、今の病院とかデイサービスでやっている基本的な送迎サービスに違うところを付けていくという方法を考えてはどうか。今やっていることにプラスアルファするという考え。
- 例えばM整形さんが通院のマイクロバスが市内をずっと回っているが、「大型量販店も寄りますよ。」というイメージか。
- たぶん商売人はあまり今協力してくれないだろう。委託ならやってくれるでしょうが、サービスの延長では難しい。
- どこかが窓口になって病院と店を結びつけるとか、また新たなところが入ってきたときどうするかなど、本体の役割のところを作ったらなんとなくうまくいくのではないかという気がする。この本体は市という考え方がよいと思う。
- お店の前にバスストップを作ってもらよう協力を求めたらどうか。このルートで必ずお店の前を通りますというふうにするればどうか。
- ルートにすると停留所に行かないと乗れない。ルートではなく問題は目的地への直行。どこでも乗れる、好きなところを走るのがヒッチハイク方式。民間人の誰もがやってくれるようにして、乗せたらチケットをもらう。乗った人がその人に渡す、そのチケットを持って市に行くと何かもらえる、お金はだめだけど、そういう方法ならどうか。流しのタクシーを拾っているような感じで。
- フォーマットみたいなものがある、それを持っている人は乗せて欲しいということがすぐ分かるような仕組みづくり。
- 知っている人なら乗せるが、知らない人だと心配かなど。
- そういったサインをどうするか。例えば障害者のヘルプマークのようなもの。
- どこでも乗れるようにしても、決められた車を作らないと分からないし安心して乗れない。逆に乗せる人もそのつもりで廻れる。個人でもよいが人と車両の登録は必要。基本的に無償はだめ。最低でもガソリン代は出してあげる。請求方法や保険等の条件は市が決める。マグネットを準備して登録車両は貼り付ける。毎日でなくてもよい。今日は車が空いているから乗せてあげるわとってマグネットを貼って、ある程度の範囲を決めて走るとか。
- それが仕事にならないよう、今の段階では細かく決めなくてよい。出たいときに自由に、あくまでもボランティアで出る。
- 住民さんがボランティアで協力してくれるシステムを考える。
- ひっかかりは白タク問題と思う。
- 課題ではあるが、こういう取り組みがもしうまくいけば理想的、考える価値はある。
- 車に乗れないとか弱者の人のためのボランティアなので、ある程度利用者を限定したらよい。最初は、高齢者、障害者を対象。学生は歩ける。
- 今考えるのは水口学区の中だけでよいと思う。手始めにやってみて、どれだけの効果がでるかやってみなければわからない。
- 地域をよく知っているところ、地の利を生かしたようにしてもらったらよいと思う。一度そういうのをやってみるのもひとつ。

- ・呼びかけは行政で。民間からはないと思う。
- ・これをするのにはいろんな課題や何なりの障害が出てくるとは思うが、今までどこにもこういう取り組みはない。見ず知らずの人を乗せるというのはなかなかないこと。手始めに小さいところから始めていくと、市全体をカバーできるような形にはなってくるのではないか。

解決の方法	
① 高齢者や障害者等への移動支援 <ul style="list-style-type: none"> ○ヒッチハイク移動サービス <ul style="list-style-type: none"> ・水口学区エリアの移動支援 ・事前に車両、ドライバーの登録 ・利用者は行き先ボード(カード)を掲げる ・利用料は無料(実費経費は市が負担) 	

市の施策	
継続	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティバスの運行 ○移動・移送支援活動への補助
新規	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティバスの利用促進・売上向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ラッピングバスの拡大 ・ルート検討 ・ポイントサービスの導入 など ○タクシー無料乗車券の発行 ○市民団体やボランティアによる移動・移送支援への補助

1-4 子ども・若者

現状・課題の確認
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、若者が少ない ・若者が町から出ていく。帰ってこない。
検討過程、論点
<ul style="list-style-type: none"> ・若者の定住策としての魅力あるまちづくり。 ・結婚対策 ・少子化対策
委員の意見
第5回検討委員会から <ul style="list-style-type: none"> ・参考資料として水口小学校の児童数推移のグラフを用意した。30年前は全校で800人ほどいた。平成15年以降、急激に減ってきている状況。これは岩上学区も含んでいるが。 ・出生率は日本の場合1.2から1.4で、増えていく要素がない。子どもが少ないことと、もう一つは結婚をしない若者が多いこと。適齢期が上がっているということもあるが、その理由は、男も女も「したくない」、「相手が見つからない」というのが多い。 ・市の結婚相談事業にもけっこうな数の方が登録されている。女性も登録されているが、マッチングするには数のバランスが悪い。 ・子どもを育てる環境、若者が結婚をする環境、若者が居残る環境、そういう環境を地域の中でどのように創造するか、知恵を出し合っていたきたい。 ・近年では秋葉北には70戸ほどできた。住んでおられる方はみなさん若く子どもも多い。

- ・人口集中地ができても団地の方たちは一代限りが多い。息子が家を継ぐとか親も子も思っていないのでは。
- ・水口の街中でいうと子育て世代というのは水口の郊外に新しく家を建てたりとか引っ越ししたり、そういう方が知り合いにいる。秋葉北にも中畑の30代の人がいる。
- ・全国的に子どもが減ってきている。どこかの市ではお金をかけて支援して人口が増えている。そこに住みたいというそういう行政の施策が必要では。
- ・3人目を産んだ人には100万円を渡すという話が、昔どこかの町か村であったのでは。結果は分からないし、安易だが「いっぺんやってみたら」というような話でもよい。
- ・国が出産一時金を渡すという話に対し、例えば同じ額を市で支出して国の2倍もらえるといった思い切った施策を打ち出した方がよいと思う。ただ、若者に対してどうアピールできるかということ。
- ・大胆な財政出動がメリットを感じるものであればよいが、子どもを増やそうとか若者に残ってもらおうという施策はどこでもやっている。限られた財政で地元の魅力を感じてもらえる方法はお金を与える以外のもの、若者を惹きつける町の魅力を考えないといけない。
- ・若者会議をやっていた。まさにこういう取り組みというのは、今までほとんどなかったと思う。
- ・それは行政サイド、あるいは地元で。
- ・両方で。今の若者は地域に対する関心がなくなっている。一案として、水口祭りをインターネットに上げたらどうかという意見が出ているが、祭りのPRひとつにしても若者の意見を採用するとか、将来の市の計画に対しては、「市内の16歳から18歳の若者の意見を採用します。それに基づいて市政を運営します。」というようなアピールをすとか、若者に決めさせる、参加を促すような方策ができないか。
- ・やらされているとか、仕方なく住んでいるというような感じではなくて、自分の街だから自分が積極的にかかわってもよいというような方向に少しでももっていければ、やはり地元に残るだろうし、この街をもっと良くしようという気になるのではないかな。なんとかここに残ってもらうような市の施策が大事だと思うが。
- ・去年、若者の政策アイデアコンテストをやってそういうことを試してはいる。
- ・ここにDNAのある子はここに帰ってくる。年に1回かもしれないし、定年になってからかもしれないが、あまりここに縁のないJとかIとかより。
- ・空家の活用において、今はネット社会なのでリモートワークで水口に縁がない若者を空家に呼ぶことも可能性がある。
- ・やはり学校や会社の誘致、名高い企業であるとか。
- ・人口が増えればすべてが解決するのか。例えば開発団地、人口を増やすことが目的ではない。結果として人口が増えるかもしれないが、今ある水口の地域コミュニティをいかに維持していくか、住みやすい街にして10年後20年後の高齢化に対応できるような街にするとか、それが基本的な目的であって、そういう街にすることイコール子ども若者に魅力を感じてもらえる街につながる。
- ・工業団地とか住宅団地がいらぬとは思わないが、街中はどんどん人が減っていく。団地では遠くから来た人が税金は落としてくれるがコミュニティも何もなく、防災も無関心。つながりが何もないような街では意味がない。
- ・前にもお話をしたが、例えば月3,000円の町費で年36,000円、これを団地の若い世帯に持っていったら断られる。しかし、最初は月1,000円で、一緒に活動しませんか、ごみステーションを使っただけでもかまわない、曳山の太鼓を叩いてもらってもいい、そういう声のかけ方で、最初から地元と同じようにはできないけれど、そういう入り口を作り時間をかけて地域に馴染んでもらうというやり方を区長さんや町代さんに考えていただきたい。
- ・旧のエリア内にアパートが建つと、難しいのは(住民が)大概定住されないで、コミュニティの付き合いはいらぬと言われる。強引に入ってもらうことはできないし、とりえず接点がないと新しい人たちと話せない。

- ・若い人たちが自分たちの世界やジェネレーションだけで付き合うのではなく、いろんな機会ですぐ地元と話す、あるいは行政との接点を持つ、そうした機会を持たないと若者の思いが伝わってこない。
 - ・ラジオで聞いた話。関西のどこかで地域の再生につなげた事案として、ごみ集積場に椅子を置いた。すると、座って休憩する人が何人か集まりおしゃべりが始まる。趣味の話などが広がり、それがその地域の再生につながったということ。出会いの場という話があったが、そういう場を作る。若者に関して言えば溜まり場を作る。今だったらWi-Fiが使えるような、若者を惹くような、漫画やゲームもよい。
 - ・出入りが自由なところが近所の町筋にあったら行くだろうか。
 - ・水口あたりの子は、そんなに草津や京都には行かないのでは。大型量販店やゲームセンターなど、水口にはそこそこ商業施設があり、便利である程度の都会だ。
 - ・溜まり場の話は、ちょっとしたアイデアで広がって行きそうな気がするが、そこに人が寄って次につなげるような仕掛けが必要では。
 - ・金がかからないし、一度それをやってみてもよい。結果はわからないが可能性はある。
 - ・お喋りの練習に集まる中学生の目的はお喋りの練習ではなく、皆としゃべること。練習が9時ごろに終わり、帰れと言っても帰ろうとしない。
 - ・クラスの付き合い、学年の付き合いではなくて縦の付き合いがある。先輩がいるとか。
 - ・同級生も先輩もいて縦も横もコミュニケーションがでる。お喋りだけには限らないが、お喋りもそういう役割を果たしている。それはいいことだ。
 - ・結婚したい人はおられるのに、出会いの機会がなかなかない。マッチングアプリとかあるが、それも仕掛けていくことが大事では。
 - ・確かにそういうTV番組があつて、町をあげてやっていた。
 - ・役所がこういうところでもっと力を入れたら良い
 - ・区に入っている人より非加入世帯のアパートの方が小学生が多いのが現実。
 - ・今回上げさせてもらっているテーマには特効薬のようなものはないだろう。
 - ・この前、夜に城山で忍者の催しがあった。そういうイベントで人を呼ぶ、情報発信を積極的に上手にやって、興味を持ってここに住んでくれるようになればよい。(空家班でも出していた)
- 城山をもっと整備すればよいと思う。公園的に整備し、そこで何かイベントをするなど。
- ・方向性としたら、地域自体に魅力を感じてもらえるような模索と若者にピンポイントで、今の若者に対して何が出来るかというような、テーマが被るが二つの方向性があるのでは。
 - ・おっしゃる通り絶対にかぶる。

第6回検討委員会から

- ・若者が夜でも寄りそうな場所も必要では。飲み屋さんも魅力のひとつ。
- ・例えば、空家を安く借り上げて、そこに自習室を作る、あるいは自動販売機などを置いていっしょにゲームができるような場所を作るとか。特に街中に居場所がない。お喋りをやった後に、仲良くなっていくように、そういう場所ができたらどんどん広がっていく面があると思う。
- ・大学が来たらもっと活気づくのではないか。誘致するのは難しいが。
- ・どうしたら若い人に魅力を感じてもらえるかという話。
- ・うちの町はこんな町やねんという胸を張って言えるような魅力と住民のプライド。イベントも世間に知れ渡るようなことをする。若者の心をくすぶるようなことをやればどうか。

解決の方法

① 愛着の醸成

○若者の居場所“たまり場”作り

- ・空き家を活用した自習室、ゲーム室など

- 若者の意見を反映→より積極的に！
 - ・若者会議の意見を実現させる仕組み
 - ・若者の政策提案
- ② 甲賀市の宣伝、広報、甲賀市の魅力発信
 - イベントの開催
 - ・「水口と言えば・・・」と思ってもらえるようなイベントを年1回継続して開催[忍者、アイドル、参加型ジャズフェス(活躍の場を与える)]
 - ・水口曳山まつりの土・日開催

市の施策	
継続	○ 若者の政策提案
新規	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業、大学の誘致 ○ 大胆な財政出動 <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金の援助 無償化 (地域に残ることを条件に) ・出産一時金 ○ マッチング(結婚)イベントの実施



ワークショップの風景

IV-2 地域コミュニティ拠点の今後の在り方

水口学区内で地域コミュニティ活動や災害時の避難所に活用されている既存の主な集会施設を下記に示します。数はたくさんありますが、その多くは地元の区や町が集会のために所有する施設であり、そもそも不特定多数の利用は想定されていません。地域拠点施設という視点で水口学区の施設を近隣地域と比較してみると、伴谷地域には体育館を併設した水口交流センターが平成26年に開設されています。貴生川地域、岩上地域には旧公民館があり、建築年は古いものの集会室や活動室を備えています。綾野の水口中央公民館、および柏木公民館は令和5年、6年の間に新築され、いずれも市のコミュニティ施設として、新しく生まれ変わる計画です。

そのような中、水口学区を見てみると、現在、東部・北部の2つのコミュニティセンターがあり、施設近隣の区・自治会や住民の教室やサークル活動に利用され

ています。また、中部コミュニティセンターは綾野学区に位置しますが水口学区の拠点と位置づけられ、みなくち自治振興会事務局が所在するとともに、施設を活用した振興会事業が年間をとおして展開されています。

しかしながら、約7,000人が居住する水口学区の施設としては、いずれも規模が小さく、設備や間取り、2階への導線等が利用者の高齢者に適さなくなっているのが現状といえます。

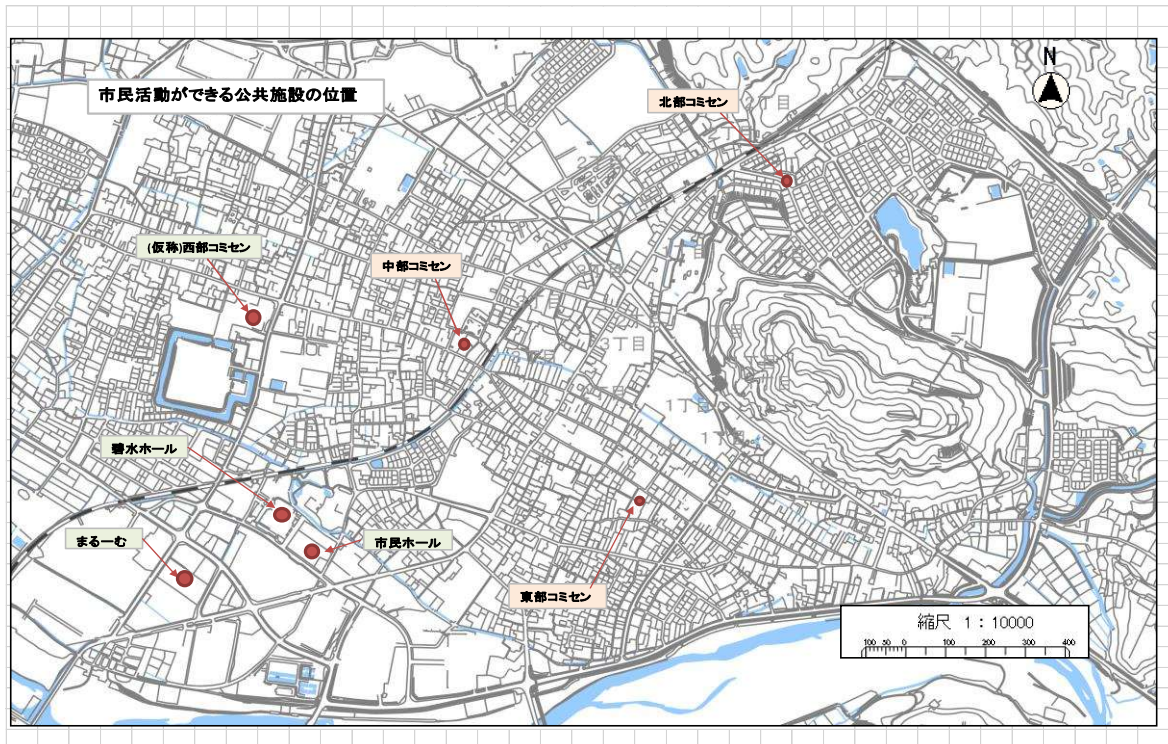
一方で、平成29年に甲賀市が策定した公共施設総合整備計画において、東部コミュニティセンターと北部コミュニティセンターの2施設は2029年までに廃止、もしくは地元委譲という方針が掲げられており、利用者から存続を望む声も聞こえています。

集会所・避難所一覧

	施設名称	所在地	備考
1	水口東部コミュニティセンター	神明 3-12	自主避難場所
2	水口中部コミュニティセンター	八坂 7-4	指定避難所
3	水口北部コミュニティセンター	朝日が丘 5-12	自主避難場所
4	作坂町集会所	元町 4-12	自主避難場所
5	松原町集会所	元町 8-13	自主避難場所
6	片町集会所	秋葉 1-14	自主避難場所
7	秋葉草の根集会所	秋葉 2-23	自主避難場所
8	葛籠町草の根集会所	京町 7-34	自主避難場所
9	旅籠町老人憩い家	元町 4-24	自主避難場所
10	柳町ふれあい館	本町 1-6-9	自主避難場所
11	東町公民館	京町 7-35	自主避難場所
12	湯屋町集会所	元町 3-11	自主避難場所
13	滝町草の根集会所	京町 8-8	自主避難場所
14	池田町集会所	京町 4-12	
15	呉服町集会所	本町 1-4-25	自主避難場所
16	米屋町集会所	本町 3-7-29	自主避難場所
17	第9区公民館	暁 1	自主避難場所
18	南区草の根ハウス	高塚 5577	自主避難場所
19	ぬしや町草の根集会所	本町 3-6-33	自主避難場所
20	中之町公民館	本町 2-3-28	自主避難場所
21	12区老人憩の家	本町 3-1-12	
22	幸ヶ平草の根集会所	水口 6785	自主避難場所
23	古城が丘集会所	古城が丘 643-11	自主避難場所
24	松尾草の根ハウス	松尾 1063	自主避難場所
25	松尾団地草の根集会所	松尾 664-88	
26	水口松尾台集会所	松尾 744-167	自主避難場所
27	岡の郷会館	水口 580-68	自主避難場所

【地域カルテより抜粋】

■集会施設等の管内分布



■コミュニティセンターの現状

東部コミュニティセンター

所在：水口町神明 3-12
 構造：鉄骨造 2階建(築 1987 年)
 面積：延床面積 289.568 m²
 1階 176.832 m²
 2階 112.736 m²
 施設概要：和室(大) 2室
 和室(小) 1室
 会議室 1室
 管理者：一般社団法人水口岡山城の会



利用者数 (人/年)

R2	R3	R4
1,162	1,062	1,241

北部コミュニティセンター

所在：水口町朝日が丘 5-12
 構造：鉄骨造 2階建(築 1991 年)
 面積：延床面積 264.37 m²
 1階 149.12 m²
 2階 115.25 m²
 施設概要：和室(大) 2室
 和室(小) 1室
 会議室 1室
 管理者：古城が丘区



利用者数 (人/年)

R2	R3	R4
1,823	1,964	2,572

中部コミュニティセンター

所在：水口町八坂 7-4
構造：鉄骨造平屋（築 1996 年）
面積：延床面積 308.61 m²
1階 308.61 m²
施設概要：和室（大） 2室
会議室 1室
曳山蔵併設
管理者：甲賀市
(R6 年度～みなくち自治振興会)



利用者数 (人/年)

R2	R3	R4
3,150	3,230	4,101

■ 施設利用者の声

東部コミュニティセンター及び、北部コミュニティセンター利用団体からアンケート方式による聞き取りを行った結果、総ての団体から、「廃止は望まない、残して欲しい」との回答でありました。自由記述の内容は以下のとおりです。

・高齢化を迎えた区民の健康維持を願って、区の事業の一環として 20 年前に発足した歌声サロンはコミセンがあったことで今日まで存続してきました。利用させていただいたことに感謝ですが、廃止されることは即活動停止につながります。空き家利用等の代替を考えるにしても体力と気力が残っておりません。高齢化を見据えた検討委員会の皆様には、今細々と活動を続けている高齢者への指針も合わせてご配慮をお願いいたします。
・地域密着のコミュニティセンターは大切です。若い人は車で移動できるけど高齢は遠くへは行けません。近くにあるこそコミュニティセンターです。とにかく廃止するのは止めてください。
・朝日が丘区は北部コミュニティの廃止に断固反対します。朝日が丘区（岡山町、旭町、利平町）は区の会合や各町内の常会、夏のふれあいフェスタなど色々な行事など、住民が集まる場所がなくなることは考えられない。もし廃止になるのなら市の市民として一切の活動が朝日が丘区と出来なくなると思います。現時点では存続をお願いします。
・小学校の教室を開放してほしい。（使われてないところ）
・空き家を上手に使えるように工夫してほしい。
・お年寄りのサークルなので近くの集会所がなくなると困ります。
・東部に会議やサークル活動の会場がないので今の位置に建替えてほしい。桜の木もあり駐車場もありよい場所だと思います。会員皆様の希望です。
・高年齢のため、いつまで続けられるか分かりませんが、続けられたら続けたいと思っています。
・今後ますますコミュニティ施設が必要になってくる。古民家を利用することもいいでしょう。市の援助も必要と思います。
・新しく建設された社協やまる一むは私たちにとって使用が出来にくい建物になっている。もし新しい施設を作るなら、安く気軽に使用できるものにしてほしい。

このような現状や背景をもとに、第 7 回は検討委員全員で、第 8 回の 2 班に分かれ、以下 2 つの論点で意見を出し合いました。

2-1 東部、北部コミュニティセンターの今後

東部と北部のコミュニティセンターの廃止や地元譲渡の方針について、市は平成 30 年の計画策定以降、これまでの間に市民に説明をしていません。検討委員会には甲賀市公共施設等総合管理計画の抜粋や取組の概要版が配布され、近隣区の検討委員が利用実態等の説明を交えて協議しました。

1 第7回検討委員会における意見の整理

- ・〈東部地元委員〉 5年後に地元に移譲できなければ廃止するという事を市から聞いている。ただ、東部コミュニティセンターは緊急避難場所であり、自主避難場所でもある。最終的には水口小学校に行くわけだが大事な場所である。それと、子どもからお年寄りまでのコミュニティの場所でもあるので、無くされることに当然住民の反対が出てくると思うが、それくらい熱意があるとありがたい。個人的には大事な場所であると思っている。今現在は中部区長会の寄り合いの場所にもなっている。
- ・〈北部地元委員〉 昨年度、古城が丘区の区長をさせてもらった。北部のコミセンの使用状況としては、朝日が丘区、古城が丘区、東古城が丘区等の区が会議に使っている。芸能関係で三味線を教えておられたり、高齢者の方に体操を教えておられる方がいて、定期的使用をされている。会議関係で一番使っているのは古城が丘区だと思う。コロナでしばらく中断していたが、例年4月に区の総会を2階の大広間でやっている。防災の日には市の危機管理課のお話を聞いたりとか、人権の集会に講師さんに来ていただくとか、けっこう使用している。これがなくなると、古城が丘区としては大変困ることになると思う。北部コミセンができる前は、ちょっと離れたところにある東古城が丘の集会所を使っていた。だいぶ老朽化していて現在使っておられるかどうか分からないが、またそこが復活するのだろうか。古城が丘区としては一番近いし、使用頻度がけっこうある。地元譲渡という話もある。今は古城が丘区の区長が指定管理者だが古城が丘区だけでとてもじゃないがお金がなく、面倒は見切れないだろうと思う。そのあたりどうなるのかと不安に思っている。
- ・市の計画では5年後に移譲か廃止となっているが、最終的に移譲、廃止の地域の方の合意形成はどういう区域で、どこの区長さん方が判断されるのか。ランドデザイン検討委員会で議論をしても、実際にどういう形で誰が市との交渉し判断をするのか、市はどこに話を持っていかれるのか不思議に思っている。
- ・地元とはどこなのかを明確にしてほしい。
- ・要は誰かがやる（移譲を受ける）と言わなければ廃止ということだ。
- ・例えば6区でもらいますと言って建物をつぶして売ってもよいのか。極端な例だが、解体に100万使っても110万で売れば儲けになる。
- ・今度、中央公民館を壊して立派なものができて、綾野自治振興会が入る。そこには、集会ができる150人から200人が入れるようなスペースもできる。会議室もいっぱいできる。その名前は何かという「西部コミュニティセンター」。東部、北部は廃止と言っているのに西部コミュニティセンターというのは違和感がある。
- ・そこが必要であれば、地域のみなさんが「残してください。」「防災の面に関しても必要だから、平屋でよいので残してください。」「ランドデザインなのだから「それは残せ!」と言えばよい。万が一の場合に備えて、そのようにしてもらったほうがよい。
- ・避難場所は城山中学校も水口東高校もあるけれども、たちまちコミュニケーションを深めるにはそこしかないわけだから、それをなくしたらダメ。
- ・私たちが検討をするのは、「東部と北部については地域の意向を十分に配慮し・・・」という文言に止めておいたらどうですか。
- ・令和10年度に移譲か廃止の計画があがっているけれど、私たちのランドデザイン検討委員会としては、地域（利用者）を重視した言葉にとどめておいたらどうか。
- ・移譲の話はここで判断することではないので。
- ・朝日が丘の人からすると、草の根ハウスとかがないので、東古城が丘のところしかないのだからかなり不便になるかなと。
- ・実際、困るのはカラオケ教室とかお絵描きの会とか詩吟教室とかをやっておられる人。集会に使いたいというのはないし、老人会とか敬老会はお寺でやったりしている。
- ・怖いのは、ああいう集会施設がなくなることによって区自体の存在も（希薄化する）、集まる場所がないから区はなくなってもよいと、若い子たちが言い出すと怖い。
- ・コミュニティがなくなる。市はコミュニティを進めている一方で逆効果になるという危惧。

- ・中部は小学校を使うとか、そういうことをしないと。空き教室もあるのだから。
- ・（譲渡または廃止について、検討委員会としては）「客観的にやはり残すべきと検討委員会では考える。」といった表現でとどめることになるのか。「残してくれないとダメ。」という表現になると（気持ちはわかるが）明らかに要望になる。表現の仕方を考える。
- ・とにかく、いろんな意見がある。ここでできることは結論を出すことではなく、コミセンがなくなったら具体的にどういうことに困るのか、ないといけない具体的な理由、緊急避難場所に指定されているというようなことを出し合って、市のほうに交渉できるような材料集めはできると思う。だから具体的に地域のみなさんの要望、なくてはならない理由、なくなったら何に困るのかというのを集めて、その先にあるのは単純に廃止なのか、統合新築案なのか、先が見えてくると思う。単純に「困る」だけでは話が進まない。
- ・三つを一つにするという提案も、できれば代替措置としてそう導けたらよい。
- ・〈事務局〉いろんな意見、考え方がる。地元の区長経験者もおられるが、残念ながら検討委員会には利用者の方が少ないので、その声を聞き取れたらと思う。去年の段階で定期的に使われているのは北部が7団体、東部が8団体、立派な施設ではないが重宝されている。利用者、団体への意見聴取などを検討し、議論のネタとして資料提供をさせていただく。

2 第8回検討委員会における意見の整理

【1班】

- ・中部の区長会で東部コミセンを使わせてもらっている。
- ・東部の区長会で話をしていたが、そういう計画があつて地元の譲渡先がなかったら廃止されるということは、たぶん住民は知らないと思う。もう少しオープンにさせていただきたい。
- ・コミセンが廃止になるという情報自体、古城が丘69軒の中に情報が下りていないと思う。去年、区長をさせてもらったときに市のほうから将来的にこのようになりますというお知らせというものは一切なかったし、実際に管理をしてくださっている方に聞いても、市からそんな話は聞いていないと言われた。ある日突然「ここは廃止になります。」となると住民はびっくりする。どういう段取りで話が進んでいるのかが分からない。昨年、私自身が（区長るとき）利用者の方に、ここが無くなるのという話をしたことは一度もない。今年の区長さんは話を聞いておられるのかは分からないが。
- ・まずは東部、北部の地元でこの話をして、2029年まで時間があるので、使う側にもっと議論をしてもらって、我々がここでやってもいっこうに進んでいかないと思う。
- ・本当に一部の人しか知らない、役員だけが知っているだけで下ろす手立てがない。私たちが細かいところまで説明はできないし、やはり地域住民の方のいろんな話を聞く場を設けてもらったかどうか。
- ・市からとすると、今「まる一む」が拠点的な施設として、北部や東部の代わりに結構利用されていて、僕らでも会議をするときに利用させてもらったりしている。調理ができるところもありますので、そこへ移行して行ってゆくゆくは東部と北部もなくしていくという方向づけがなされているのではないかと思っている。そうであるならば、十二分に地域の住民の方々に行政側がきちっと意見聴取を図り、「まる一む」を利用して欲しいという方向を示していけばどうかと思うのだが。
- ・北部のコミセンは隣に遊具を置いて、子どもが遊べるようになっている。東部にしても同様なので、子どもの遊び場というのも論点の一つにしていくべきではないかと。
- ・今の時代に合っていない建物なので、使い勝手が悪いのは当たり前と思う。
- ・区ではなくて、区長会や自治振興会で管理すれば、もう少し人が手配できるのかなと思うし、使い勝手がよくなれば利用者も増えると思う。なくしたらみんな困られる。廃止に賛成する人はいないと思う。
- ・知恵を絞って、何とか残してもらえる手法を考えていかないといけない。
- ・民間の会社に事務所や店舗のナントとして一部を貸し出して全体を管理してもらって。そういう形にすると絶えず人がいる状態になるし、維持管理はそこにしてもらえる。そうすればよいのではないかと昔から思っている。しかし、ニーズに合った職種でないとなかなか難しい。

- 例えば、駄菓子屋さんが入ったところにあると子どもたちが寄って来る。子どもが寄って来るということは人の出入りがあるので自然といろんな人が出入りするようになるのではないかと思う。
- 今のまる一むに高校生がたくさん来ているのは、常時管理人がいる、無料で開放されている、遅くまで開いているというのが大きい。それと同じようなことをすれば地元でも人の出入りは増えるような気がする。
- カフェのような感じのものでも良いと思う。
- 「学習塾」や「児童クラブ」との併設、若い人が常に寄ってくる。ただそれなりの駐車場を整備しないとイケない。北部は無理がある。
- 人が利用しやすいもので、だれに出会ってもよいところ。
- 子どもたちに認知をしてもらうのが良いかと思う。駄菓子屋というのは面白い。
- 区とかに渡してしまうのではなく、民間で管理をしてもらって利用料を払うという形。地域に開放してください、という条件を設けて民間に入ってもらい、あとは好きなようにテナントとしてやってくださいねというのも考えても良いような気がする。
- 若い人たちが柔らかい頭で考えるようなことを考えないと、人はなかなか戻ってこないし集まってこないと思う。「まる一む」は良い例ではないか。若い子たちがたくさん集まっている。周りにもお店が増えてきているし、それにつられて人も出てきていると思うので。
- そこは民間に入ってもらって、民間で改修してもらおうという方法。そうであれば多少の補助を出しましょうという形を市に取ってもらうような方法も考えられるような気がする。
- ニーズに合うような形で民間が入ってくださる方がいらっしやればよいけれど、かなり費用がかかる。
- 折半ということでもよいのでは。また、ベンチャーさんを募集して補助しますというやりかたもできるのでは。
- とにかく人に来てもらえるような状況をどういうようにして作るかだ。それは市だけでやろう、地域だけでやろうというのは難しい。民間企業を上手に使えば一番良いと思う。大学生がシャレットワークショップで考えた計画でも、市ではたぶんどできない。民間にお願いし、一緒にやりましょうよという形をとれば、いくつかは実現するのではないか。やりたいという思いを持っている方は、地元にも多少はおられるのではないか。
- やはり原資が要る。北部、東部のコミセンは原資がないから苦労していると思うが、なくしてしまうとゼロです。ゼロからだとして次に何も生まれない。

【2班】

- 東部と北部のコミュニティセンターの廃止、譲渡について、どこで決めたのか、議会で説明したのか、市役所の中ではどういう組織が決めたのか。
- どういう経緯、経過でされて、令和10年にその2施設が廃止か地元譲渡という最終的な意思決定にいたったのか。
- これを初めて知ったという市民が多い。周知期間なりどういう活用がよいかなど地域でも考えてもらう必要がある。10年ではなく令和20年、30年に計画を伸ばしてもらえないかという地域別ランドデザインの意見として出せないか。
- 東部は近隣住民が利用している事実や、災害時の避難場所になっているということ、そして(区の)防災倉庫が2つ建っている。
- どこも防災センター的な施設である。
- 選挙の投票所
- 譲渡されても区では維持できない。
- 今は東部の話をしているが、北部の人は「なぜ、そっち？今の施設より遠くなる。」という意見を言われる可能性がある。北部コミセンは古城が丘区が指定管理を受けて運営されていて、古城が丘(団地)一体の人たちが利用されている。松尾の3つの区は自分のところで集会所を持っておられるので、「私たちはよろしいです。」と言っただけのなら東部地域に(新しい施設を)建てて、その暁には東部コミセン、北部コミセンを廃止してもらおう。それが令和10年で無理であれば、今現在使っているので東部が建つまでは伸

ばしてくださいというものの一つの家ではないか。

- ・東部と北部は令和10年と言っているが、令和20年に延ばしてほしいということを経営別グランドデザインの考えとして示すことはできないか。その間に、施設の今後の利用なり譲渡なり、そういった方向性を継続的に地域にも考えてもらうことができる。
- ・市役所に行って担当課の財政課マネジメント推進室の職員と話した。いつ地域に説明するのですかと聞くと、「まだです。今皆さんがやっていたいでいる地域別グランドデザインで、いろいろな意見が出た中でそれを集約して私どもと主管課の市民活動推進課の2課とで地域に入ります。」というようなことを言った。今、利用者にアンケートも取ってもらったので、そういう意見も聞きながら担当課である推進室と市民活動推進課で地域に入るとのことだった

3 その他、関連する意見（7回・8回一括）

- ・一方、信楽の教育施設で10人しか児童がいない学校に、先生が10人おられる。それがいまだに存続している。公共施設の3割縮減であれば、そこをいち早く統廃合すべきだと思うが、なぜできないのか。
- ・水口小学校と綾野小学校を一緒にしてくれと言っている。適正規模だ。水口小学校もよい校舎になったし、もう一度昔に戻ったらよいと言っている。そして、自治振興会も中央公民館のところに新しくできて、水口も綾野と一緒にやればよい。
- ・「都市計画・国土利用計画・道路計画等による位置づけ」において、旧水口町には街路計画等、いろんな都市計画の網がかかっている。その一つ、街路計画を何年度に着工して、何年度に完成するのかわかるというものを一度示してもらいたい。この地域別グランドデザインの計画の中に、行政からも（地域課題として）、それをあげていただきたい。
- ・この街の形態は旧水口町から何にも変わっていない。きちっとした街形成をすれば、もっと人が寄ってきてにぎやかになるのかなという思いがあるが、せつかく都市計画の街路計画が少しも進んでいない。着手しようとする気構えもない。ただの計画だけで終わっている。（行政が）やれるのかやれないのかを示すのもこの計画だと思う。

地元譲渡、又は廃止という市の方針については、市から地元への十分な説明がなく、検討委員会には近隣コミュニティ組織や利用団体など直接の利害関係者がおられないため、ここでは結論を出さず、上記のとおり委員個々の意見を整理したうえで、第8回会議の1班の発表の一部を議論のまとめとし、次の議論のテーブル（振興会や市との協議の場）に引き継ぐこととします。

- ・やはり一定の利用はある。
- ・公共施設の統廃合について、管理計画の考え方が住民にしっかりと浸透していない。
- ・そういう中で、施設がどうあるべきかという話をしても、なかなか進まない。
- *この点は、丁寧な説明が不足していたことを行政として反省すべきところ。
- ・35年ほど前に建てられた施設で、老朽化やエレベーターがなく移動しにくいなどの問題がある。管理を誰がするかは別として、今後も利用するのであれば改修が必要である。そのための原資がないことも問題である。
- ・公共施設を市や地域だけで考えていくことは限界があるのではないかと。民間の事業者の提案や民間の管理運営を真剣に考える必要がある。
- ・利益を生むという考え方で施設を管理運営することが必要である。
- ・管理人が常駐していないと利用の充実にはつながらない。

2-2 新しいコミュニティ施設の必要性

自治振興会の区域が定められている中、みなくち自治振興会エリアには人口に比した規模の施設が無いことは従前から課題とされています。そこに東部、北部のコミュニティセンターの廃止という方針が示されるとともに、令和6年3月末をもって、中部コミュニティセンター内にある水口地域市民センターが廃止、撤退することになっています。

そのことから、現在、水口学区の拠点である中部コミュニティセンターの位置や機能、近隣地域における施設整備状況などを確認しながら、水口学区における新たな地域拠点施設整備の在り方について意見を出し合いました。

1 第7回検討委員会における意見の整理

- ・地域別ランドデザインの中で議論すべきは、公共施設をどうするのかの話。私案としては、中部も北部も東部もみんなつぶして、今西部ができたように、東部にも新たに建ててもらえるか、そういう計画をこの地域別ランドデザインにあげていく、それが私らの使命ではないかなと思う。
- ・一番良いのは酒造会社の土地、あそこが一番良い。それがダメなら東部コミュニティをつぶしてそこに作ってほしい。
- ・廃止で譲渡を受ける地域に対して、ここでの議論は怒られるだけ。地域の方がどう判断されるかわからないが、地域別ランドデザインとして、このメンバーでは、新たに西部という良い建物ができたので、本来の東部の地域にも東部コミュニティセンターを建ててくださいと。
- ・僕らから言えば、この中部コミセンは廃止して、東部コミセンを新しくしてもらって、そこへ水口市民センターが入るのが一番良いと思う。
- ・そういうことで言えば、コミセンをどうするかではなくて、水口市民センターがここにあるのが良いのかどうかということから話をしたほうが良い。綾野学区にあるのがおかしいと言う声がある。
- ・単純に二つ譲渡、廃止するというのが市の計画で、これ(中部)には言及してない。この検討委員会では三つを一緒につぶす。一つ100平米ずつで、300平米をいったんなくして200平米のものを建てて、100平米減らす、という提案はありだ。
- ・譲渡を引き受けるところもないから水口学区に持って来いという切り口もある。

2 第8回検討委員会における意見の整理

【1班】

- ・水口学区の中でいろいろな意見を聞く。建て替えるのは難しいかもしれないが、そういう拠点というものは必要だと思う。
- ・ないよりはあったほうが良い。学区という一つの区切りができてしまったので、水口学区、綾野学区、その中で一つずつ拠点をやはり残していってもらわないと。「まる一む」は市全体のもの。ここ水口学区のものとは言えないから。
- ・これ(シャレットワークショップの成果物)を見ても今のままで使おうとする絵はほとんどない。ある程度リニューアルすると活用がだいぶ違ってくると思う。
- ・統廃合で集約していくという考え方なら新しい施設も不可能ではないと思う。
- ・管理は民間にやってもらうのか、地域がやっていくのか、もっと広いエリアでやるのか、そこはもっと使いやすいようにしたら、(東部・北部コミセンは)このままずっといけるかも分からない。新たな地域拠点というのはまた別の意味で多くの人が集まるなり、いろんな世代の人が集まれるようなものを学区に一つ作る、そういう方向性を持たばみんな知恵を出されると思う。
- ・ボランティアという感覚ではなくて、一企業という考え方を持ってやったほうが良いかもし

れない。

- ・西保育園の跡地や新水口宿公園、本水口のバス停のところを一体的に利用するとか、理想とか夢は広がるのだが。

【2班】

- ・要はコミセンとして、綾野、中部。そして東部と北部。その4つをどうするかという議論が必要では。綾野は新しく良いのができる。中部コミセンの廃止という考えを含め、東部の敷地が広いので、そこへ建てるのはできないのか。トータル的に考えると、水口(みなくち自治振興会エリア)に作らなければダメということだ。
- ・東部、北部を廃止するのは後にして、新たな拠点を先に建ててもらって、そのあと北部も東部も廃止する。
- ・順序はそうだ。学校でも(例えば)土山小学校に全部入れるようにして(児童を移して)から廃校にしている。
- ・そのような手順にしてくださいよと。それが令和10年にできるのであればよいけれど、できなければ残しておいてくださいよと市に言う。あと5年先に新たなものを建てるのは難しいので市も令和10年は無理です、令和15年か20年ですと言われたら、それまではあの施設を利用する団体や市民がおられるので、残してくださいということです。
- ・新たな拠点を作っていただいたら、東部も北部も廃止になってもしかたがない。その場所をどこにもっていくか、東部のところにもって行ってくれてもよいし、別の場所でもよい。
- ・水口では西部ができたけれど東のほうは何もない。東部のコミセンのところに新たな施設を計画してほしいという声が地域住民からもものすごく上がっているので、一刻も早く計画を策定しなければならぬということをテーブルにあげないと。みんなが言わないとダメだ。

新たな施設を作ることはグランドデザインのテーマではありませんが、水口学区では予てより地域課題のひとつと捉えています。

水口学区のコミュニティ拠点施設整備については、市の公共施設総合管理計画に基づく東部、北部コミュニティセンターの動向や、近隣学区における施設との役割分担、また市全体を相対的に見た区域や人口のバランスなどとも関連づける必要があります、具体的に掘り下げた提案を出すまでには至っていません。引き続き協議されることを前提に、第8回会議の2班の発表の一部を議論のまとめとします。

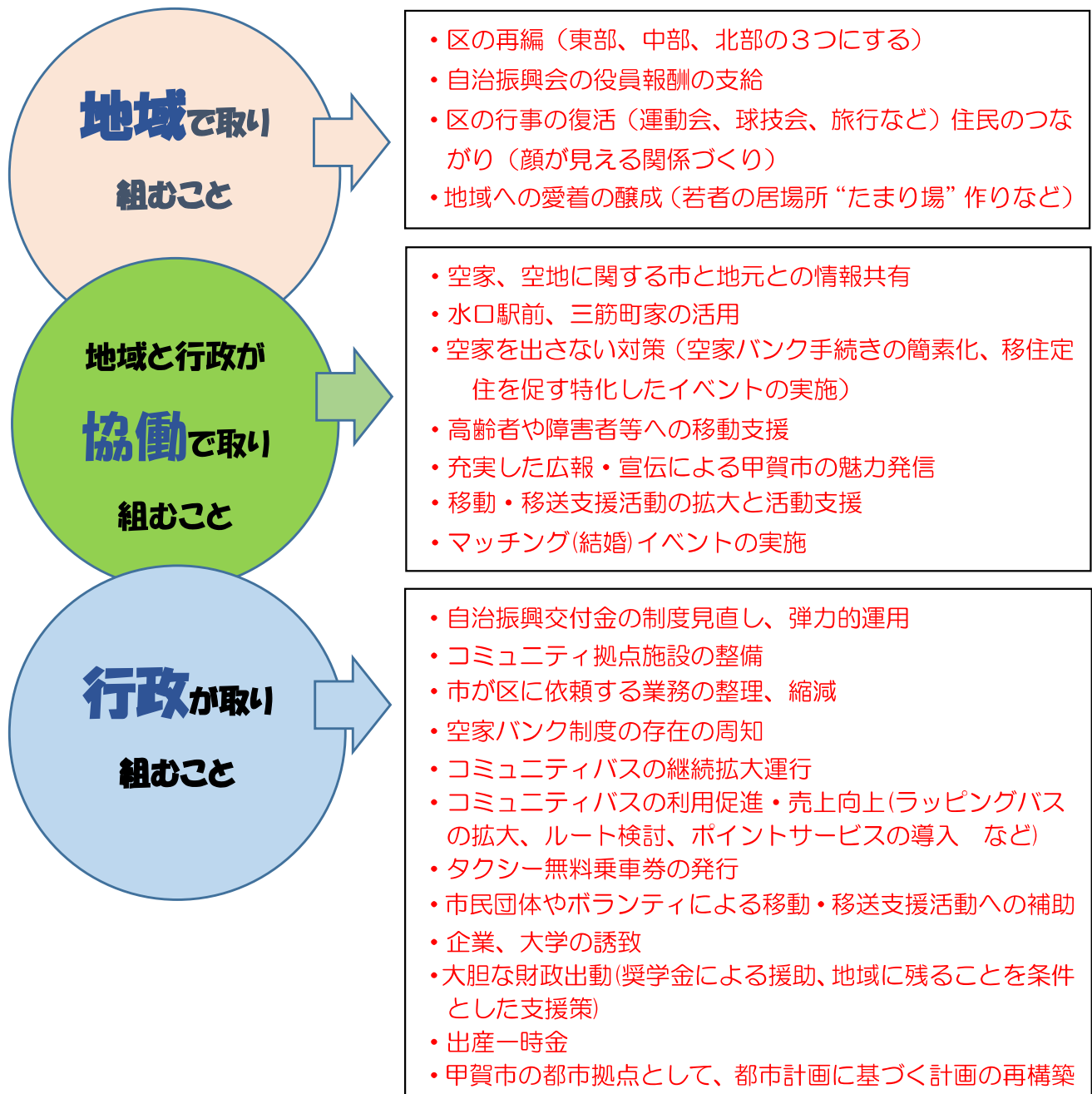
- ・東部、北部の廃止は後にして、新たな拠点をまず先に作る。建ててから東部、北部を廃止する。
- ・新たな拠点には動線は当然作らないといけない。
- ・新たな拠点は民間ではなく市の土地に建てる。
- ・東南海地震や水害に備えて建てる場所を考慮する必要がある。
- ・北部は廃止に際しては区の会議するところなくなるので、そういうところは小さな拠点の整備を検討する。

V 未来に向けた活動目標

これまで検討を重ね出された意見は、いずれも地域に暮らす人々の思いであると同時に、今後の水口学区のまちづくりを進めるうえで大切にしていかなければならない**目標**と位置づけることができます。

ただし、目標の達成、実現に向けては、行政だけではなく、みなくち自治振興会を核とした地域住民の協力と参画が不可欠です。

そのため、検討結果を主体ごとに分類し、それぞれの活動目標として整理します。



最後に、この提案による取り組みが、水口学区の持続可能なまちづくりの実現につながることを祈念します。

VI 付録

1 水口学区 地域別グランドデザイン検討委員会委員名簿

氏名	備考
杉本 茂樹	3 区長（選任時点）
斎藤 一美	1 区長（選任時点）
望月 文衛	6 区長
吉田 泰啓	9 区長
山中 正一	1 3 区長（選任時点）
久保 直哉	古城が丘区長（選任時点）
筒井 光雄	自治振興会会長
市原 敏	自治振興会副会長
廣瀬 悟	振興会元役員
久保田 佳史	振興会委員（選任時点）
西村 雅之	振興会委員
飯岡 奈美	振興会委員（選任時点）
大原 智和	自治振興会委員長
若林 裕亮	自治振興会委員長（選任時点）
山川 宏治	公募
神山 和久	市職員（グランドデザイン推進班員）
谷口 敬	市職員（グランドデザイン推進班員）
村田 稔明	市職員（グランドデザイン推進班員）
松井 一秀	市職員（グランドデザイン推進班員）
呉竹 弘一	水口地域市民センター職員（本会事務局）
角 直一	水口地域市民センター職員（本会事務局）

2 活動の経過

実施日	名称	内容
令和4年11月17日	第1回 検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> 委員紹介 委員長、副委員長の選任 地域別グランドデザインの趣旨・目的等の説明
令和4年12月20日	第2回 検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ【ステージ2】 地域課題の抽出、分類
令和5年1月15日	活動の広報	<ul style="list-style-type: none"> みなくち自治振興会機関紙「ひこそこめ」1月号に活動内容を掲載

令和5年1月26日	第3回 検討委員会	・ワークショップ【ステージ3】 地域課題の仕分け、検証、考察
令和5年2月15日	活動の広報	・みなくち自治振興会機関紙「ひこそこめ」 2月号に活動内容を掲載
令和5年2月17日	第4回 検討委員会	・講演録画の視聴 「全員参加による参画と協働のまちづくりとは」～高齢化・少子化社会における自治体政策の展望～ 講師：帝塚山大学 中川幾郎
令和5年4月29日	若者会議	・地元の高・大生5人と懇談
令和5年5月18日	第5回 検討委員会	・ワークショップ【ステージ4】 地域課題解決のためのテーマ別の意見交換
令和5年6月19日	第6回 検討委員会	・ワークショップ【ステージ4】 地域課題解決のためのテーマ別の意見交換・発表
令和5年9月7日	第7回 検討委員会	・「テーマ別(班別)課題解決検討結果の中間まとめ」(案)について ・公共施設の最適化検討【ステージ5】 東部、北部コミュニティセンターの現状と課題について意見交換
令和5年10月	アンケート	・東部、北部コミュニティセンター利用者へのアンケート調査
令和5年10月15日	活動の広報	・みなくち自治振興会機関紙「ひこそこめ」 10月号に活動内容を掲載
令和5年10月17日	第8回 検討委員会	・公共施設の最適化検討【ステージ5】 東部、北部コミュニティセンターの現状と課題について
令和5年12月12日	第9回 検討委員会	・グランドデザイン報告書(案)について【ステージ6】

3 会議の記録 別冊に綴じる。